

報告書〈概要版〉

我が国における青少年の インターネット利用に係るペアレンタル コントロールに関する調査

2022年5月

総務省

【委託先】 学校法人国際大学

目次

調査趣旨・調査概要	3
本調査研究から得られる政策的含意	4
アンケート調査分析	9
アンケート調査方法	10
フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロールの状況	11
フィルタリングサービスの状況	16
家庭内ルールとフィルタリングサービスの状況	22
トラブルの遭遇状況とペアレンタルコントロール・フィルタリングサービスの関係	23
実験的調査	27
実験的調査方法	28
実験的調査結果：意識の変化	29
保護者・企業インタビュー調査	31
保護者インタビュー調査方法	32
保護者インタビューから得られたストーリーとニーズ	33
企業インタビュー	35
付録	36

調査趣旨・調査概要

本調査研究の目的

青少年の安心安全なインターネット利用環境整備については、今後3年間に重点的に取り組むべき施策を明らかにすることを目的として、2021年6月7日に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにするための施策に関する基本的な計画（第5次）」が決定されている。本計画における特に留意すべき取組の観点として、次の3点が定められている。1) 法改正を踏まえたフィルタリング利用率向上のための取組の更なる推進、2) 青少年のインターネットを適切に活用する能力の向上促進、3) ペアレンタルコントロールによる対応の推進。

これを踏まえて、フィルタリングの利用促進のみならず、青少年のインターネット利用環境の急速な変化を考慮し、青少年がインターネット上のサービスを利用することを前提としたサービス・コンテンツ利用に関する取組を進める必要がある。以上の認識の下、総務省においては、「青少年のフィルタリング利用促進のための課題及び対策」（2019年8月 青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース）の公表以降に生じた環境変化を踏まえ、新たな課題と、それを解決するために官民で取り組むべき対策を整理した「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する新たな課題及び対策」（2021年7月 青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース）を新たに策定・公表している。

本調査では、「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する新たな課題及び対策」に基づき、我が国におけるペアレンタルコントロールに関する実態について調査分析を行う。

本調査研究で明らかにすること

- A) 青少年のICT利活用の普及に伴い生じるリスク及び当該リスクに対する必要な措置
- B) 子供の成長やICT利用状況に即した、ペアレンタルコントロールの実態及びベストプラクティス、並びに適切なフィルタリングサービス・ペアレンタルコントロールサービス、優良フィルタリングサービス・ペアレンタルコントロールサービス事例及び設定率の高いフィルタリングサービス・ペアレンタルコントロールサービスの分析
- C) 保護者によるペアレンタルコントロールの実態及び低年齢層の子供の保護者への啓発を促進するために有効な取組

調査研究手法

- 1. 文献調査
- 2. 20名の青少年保護者と企業1社に対するインタビュー調査
- 3. 6,500名の青少年保護者を対象としたアンケート調査分析
- 4. 500名の青少年保護者を対象とした実験的調査
- 5. 有識者会議

本調査研究から得られる政策的含意

1. 全体施策：青少年トラブルを減らすためにはフィルタリングサービスの導入促進と家庭内ルール啓発を共に行うことが効果的

- 「家庭内ルールあり・フィルタリングサービスあり」「家庭内ルールあり・フィルタリングサービスなし」の場合、両方ない場合に比べてトラブルに遭遇しにくい傾向が顕著に見られた一方で、「家庭内ルールなし・フィルタリングサービスあり」の場合、そのような傾向はみられなかった（図表28）。
- フィルタリングサービス利用者や、アプリの推奨年齢・対象年齢を守らせている家庭では、家庭内ルールも多い傾向だった（図表11）。また、「家庭内ルールなし・フィルタリングサービスなし」の家庭は29.5%存在していた（図表25）。

⇒青少年トラブルを減らすためには、フィルタリングサービスの導入促進と家庭内ルール啓発を共に行う。フィルタリングサービスと家庭内ルールがセットとなった啓発資料のさらなる開発と普及が求められる。ルール作成機能付きのフィルタリングサービスも効果的と考えられる。

⇒特に「家庭内ルールなし・フィルタリングサービスなし」家庭への普及啓発を重点的に行う。

2. 対象：低年齢層への啓発をより充実させることの政策的効果は大きい

- 全体で家庭内ルールが1つもない家庭が37.1%存在する（図表3）。また、家庭内ルールの個数は未就学や高校生で少ない傾向だった（図表4）。
- 一方で、年齢層の低い保護者ほど知りたい家庭内ルールが多く、家庭内ルールへの需要は高かった（図表5, 6）。つまり、特に未就学保護者は、家庭内ルールを守らせたいが何をしてもよいのか分からない状況の人が多くと考えられる。
- ペアレンタルコントロール啓発フライヤーによる意識変化や評価も、未就学と小学低学年の保護者で最多であった（図表32, 34）。
- 保護者インタビューでは、未就学からICT利用をしている例が多かった。最初に触れるICTとしては「親のスマートフォン」が多く、その理由の多くはゲームや動画に興味を持つほか「家事や出かけ先で少し静かにしてもらおう」ためであった（図表39）。

⇒低年齢層まで対象に含んだ啓発資料を作成し、多様なチャネルを使って低年齢層の青少年を持つ家庭へのペアレンタルコントロール啓発をより充実させる。

3. 内容①：注意喚起に関しては、実際に遭いやすい「SNS・メッセージトラブル」と「利用過多」を優先的に啓発することが必要

- 「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどで、いじめや誹謗中傷が発生する問題」「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたす問題」を心配する保護者は多く（図表24）、実際にトラブル遭遇確率も高かった（図表26）。保護者インタビューにおいてもその傾向は同様であった（図表39）。
- 保護者があまり危惧していないが遭遇率の高いトラブルとして「インターネットを通じた知り合いに性的な自画撮りを送って（受け取って）しまった、実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）」があった（図表24, 26）。

⇒青少年のICT利用で起こり得るトラブルについてより一層啓発し、適切なインターネット利用を促す。

⇒特に遭遇確率の高い「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどで、いじめや誹謗中傷が発生する問題」「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたす問題」「インターネットを通じた知り合いに性的な自画撮りを送って（受け取って）しまった、実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）」といったトラブルについて、優先的に啓発する。

本調査研究から得られる政策的含意

4. 内容②：対策に関しては保護者のニーズの高い情報を優先しかつ「設定サンプル」など具体事例とともに啓発することが効果的

- 家庭内ルールに関連して知りたいこととしては、「フィルタリングサービスの機能の活用の仕方」（30.4%）、「お子様の年齢に合わせた適切なルール」（29.5%）、「スマートフォンやインターネットのお子様への危険性」（28.9%）のニーズが高い（図表6）。
- 利用しているフィルタリングサービスの機能では、「Webフィルタリング機能」が最多の76.2%で、「アプリフィルタリング機能」が45.8%、「スマートフォンの利用可能時間帯の設定・制限」が40.8%と続いた（図表14）。また、「アプリ内課金を保護者に通知する機能」を有益だと考えている保護者が多かった（図表15）。
- フィルタリングサービスの各要素に対してお金を払ってでも使ってよいという保護者は30%以上おり、特に「子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる」「サイトの閲覧履歴を保護者が確認する機能がある」「SNSでどのようなメッセージをやり取りしているかを確認する機能がある」が人気で、平均して70円/月以上の支払い意思額があった（図表17）。
- インタビューをした複数の家庭において「ルールサンプル」や「属性別のフィルタリング設定事例集」があるとスムーズとの声があった（図表40）。実際、ルールサンプルを載せた啓発フライヤーの評価は高かった（図表34）。
- インタビューでは、購入時に子供と家庭内ルールを約束し、それを守らないと使わせないようにしていると上手く管理できていた（図表39）。

⇒家庭内ルールにおいては、特にニーズの高い、「フィルタリングサービスの機能の活用の仕方」「お子様の年齢に合わせた適切なルール」「スマートフォンやインターネットのお子様への危険性」について、優先的に啓発する。

⇒フィルタリングサービスでは、特にニーズの高い、「Webフィルタリング機能」「アプリフィルタリング機能」「スマートフォンの利用可能時間帯の設定・制限」「子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる」「サイトの閲覧履歴を保護者が確認する機能がある」について、優先的に啓発する。

⇒「SNSでどのようなメッセージをやり取りしているかを確認する機能がある」ようなペアレンタルコントロールサービスも啓発し、普及を促進する。

⇒家庭内ルールを購入時にしっかり定めることの大切さを啓発する。

⇒家庭内ルールでは「ルールサンプル」や「属性別フィルタリング設定事例集」など具体的な情報を提供することが重要である。

⇒家庭内ルールを記載した「ルールサンプル」や「属性別フィルタリング設定事例集」など、具体的な情報を記載した啓発資料を作成・普及する。

5. 内容③：アプリの推奨年齢・対象年齢を守ることの重要性を啓発することが必要

- アプリの推奨年齢・対象年齢を確認していない保護者が約半分存在していた（図表8）。
- 一方、「アプリの推奨年齢・対象年齢を守らせている」場合、トラブルに遭遇しにくい傾向が非常に強くなった（図表28）。

⇒アプリの推奨年齢・対象年齢を守ることの重要性を啓発する。

本調査研究から得られる政策的含意

6. 内容④：フィルタリングサービスの効果・カスタマイズ方法・設定方法を分かりやすく啓発することが必要

- フィルタリングサービスの機能を理解していない保護者が多く、フィルタリングサービスの効果や設定方法などは未だあまり浸透していない（図表19）。
- フィルタリングサービス利用者は37.8%（図表12）だが、フィルタリングサービスを有益と考えている保護者は70%以上存在する（図表18）。
- カスタマイズで多く利用されているのは「スマートフォンで見られるWebサイトの個別許可」（50.8%）、「特定のアプリの個別許可」（51.3%）、「アプリのインストールの制限」（48.5%）であった（図表21）。
- カスタマイズしていない理由として最多は「カスタマイズの存在を知らなかったから」（44.3%）で、2位が「カスタマイズの設定方法を知らなかったから」（27.6%）であった（図表22）。
- 啓発フライヤーによって、特に「フィルタリングサービスの効果を知ることができた」（29.5%）、「フィルタリングサービスが学齢やインターネット利用状況によって柔軟に設定できることを知った」（26.0%）といった人が多かった（図表32）。

⇒ フィルタリングサービスの効果や設定方法についてフライヤーなどで分かりやすく啓発することが、フィルタリングサービス利用促進につながる。

⇒ フィルタリングサービス全体だけでなく、カスタマイズの存在や設定方法についても啓発する。また、特にニーズの高い「スマートフォンで見られるWebサイトの個別許可」「特定のアプリの個別許可」「アプリのインストールの制限」を重点的に知らせる。

7. 啓発経路：対面での説明会・研修の充実と共に、オンラインでの動画を含めた媒体・手段で、広範囲にリーチすると効果的

- 家庭内ルールを知りたい経路として、「インターネットで知ることができる」と「友人や保護者同士の会話で知ることができる」が高かった。ただし、低年齢では「学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる」ことへの需要が高かった（図表7）。家庭内ルールを知りたい経路と知る経路のギャップでは、これらに加えて「アプリで知ることができる」のギャップも大きかった（図表7）。以上の傾向は、フィルタリングサービスも同様であった（図表23）。
- インタビューでは、注意喚起や必要性については動画や講座で自分ごと化できると良い、という意見があった。また、フィルタリングサービスなどの具体的な設定については、購入窓口だけでなくウェブサイトでの解説を希望するニーズもあった（図表40）。
- 有識者会議では、職場で会社の研修として受けてもらうようにすることが、啓発の広がりにも効果的だという意見が出た。

⇒ 家庭内ルールやフィルタリングサービスの使い方について、インターネットでの分かりやすい情報公開や、学校や保育園・幼稚園等での説明をより一層充実させる。保護者同士の知見を共有する場の提供も効果があると考えられる。

⇒ スマートフォン利用率の低い保育園や小学校（低学年）でも、可能な限り、青少年のICT利用に関する保護者向けの説明を行う。

⇒ 初期の危機意識を醸成する際には動画などで、意識を持った段階で具体的な設定を求める家庭にはウェブサイトでの解説など、利用フェーズに応じて情報の内容とアプローチ方法を最適化することも効果が期待されたため、そのような多様なコンテンツを作成し、普及させる。誰もが利用できるような啓発アプリを公開することも効果がある。

⇒ 青少年保護に関する研修プログラムを開発し、企業に展開する。

本調査研究から得られる政策的含意

8. 開発①：親子で共用している家庭を踏まえ、フィルタリングサービスのON/OFFが簡単にできるサービスの開発が望まれる

- フィルタリングサービスにおいて、「ワンタッチでフィルタリングサービスのON/OFFを切り替えられる」を重視する保護者は、特に未就学と小学低学年で多く、70%以上存在していた。全体でも60%存在している。
- 一方、有識者会議では、既に利用されているフィルタリングサービスに後からON/OFFを切り替える機能を追加するのが困難な可能性があるという指摘もあった。
- 未就学児から親のスマートフォンに共用で触れる家庭が多く（図表39）、「機内モードの進化版のように、親のスマートフォンを渡す時に子供が見ても大丈夫なような『子どもモード』になるといい」といった声が伺えた（図表40）。

⇒親との共用家庭において、スムーズに設定をON/OFFできるようなフィルタリングサービスや子どもモードにニーズがある。

⇒現在のフィルタリングサービスでそのような機能をつけにくい場合、新たに開発するという事も考えられる。

9. 開発②：人気サービスの子供向けアプリ・サービスの開発や、子供向け機能の開発が望まれる

- 2022年3月現在、子供向けアプリ・サービスは少ない。また利用者も多くなく、動画共有サービスを利用している青少年の内、YouTube KIDSを利用しているのは未就学で40%強、小学低学年で33%程度、小学高学年で17%程度であった（図表10）。
- 有識者会議では、メッセージアプリなどでほんの一部の機能を使わせたいがために、フィルタリングサービスをオフにして全て使えるようにしてしまうというケースが多いことが指摘された。つまり、アプリ内で子供向け機能を実装することで利便性が向上し、青少年保護が進む可能性がある。

⇒子供向けアプリ・サービスの開発を促進すると共に、存在を啓発していく。

⇒特に青少年利用者の多いアプリ・サービスでは、子供向け機能（子供向けモード）などの開発が望まれる。

10. 教育：青少年自身が危機意識を醸成できるような教育や対話の場を作ることが必要

- インタビューでは、小学校低学年までは親の管理が重要だと考える一方、「小学生高学年くらいからは子ども自身に危機意識や管理能力を芽生えさせたい。」といった声が複数あった。また、「本人が意識を高められるように、教育や話し合う場、子供自身が危機意識を保つための頻度の高い対話の場が欲しい。」といった声も見受けられた（図表40）。
- 「使わせない」ではなく「使いながら守る」をコンセプトに展開している企業では、結果1年後の導入継続率は約90%を超える（企業インタビュー調査）。

⇒コントロールするだけでなく、青少年自身の自立を促すための教育や対話の場をさらに作っていく。

⇒必要に応じて、そのような場に適した講座の開発・普及も行う。

本調査研究から得られる政策的含意

1 1. 調査・コンテンツ開発：青少年の新たな環境に関する調査や、具体的なリスクなどについてわかりやすいコンテンツの開発を進めることが必要

- 有識者会議では、1～10で提示された今後求められるアクション以外についても、様々な調査やコンテンツ開発の必要性が指摘された。整理すると、以下のような意見が見られた。
- ①学校から配布されるGIGA端末と私用のスマートフォンを両方利用しているという現在のICT環境を踏まえた調査が必要である。
- ②フィルタリングサービスについて多くの保護者は購入時に説明受けているはずなのに、頭に入っていない。より瞬時に頭に入るような、動画やパンフレットなどの簡単な啓発コンテンツが入り口として求められている。
- ③青少年がトラブルに遭遇する際のパターンの導出と、それを啓発する資料の作成が求められている。
- ④保護者向けでなく、青少年向けの分かりやすい啓発資料もより充実させるべきである。

⇒ GIGA端末と私用のスマートフォンの両方の利用を前提とした、青少年のICT利用環境について実態を調査し、対策を検討していく。また、青少年がトラブルに遭遇する際のパターン調査も求められる。

⇒ ペアレンタルコントロールについて、動画やパンフレットなどの簡単な啓発コンテンツを開発していく。また、青少年がトラブルに遭遇するのは具体的にどのような時・パターンなのかも啓発コンテンツ化していく。

⇒ 青少年向けの啓発コンテンツも開発していく。

アンケート調査分析

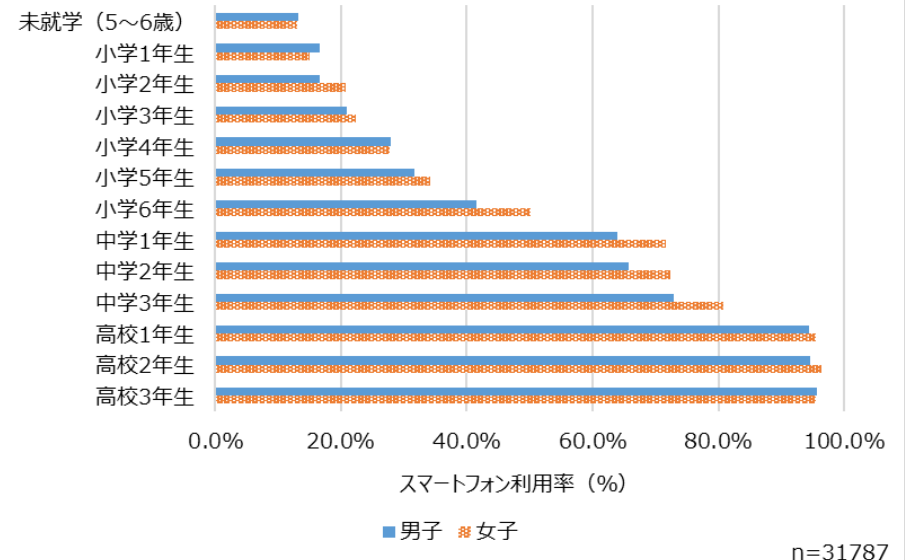
アンケート調査方法

◆ アンケート調査の概要

- 調査時期：2022年1月13日～1月19日
- 調査対象：調査会社の保有する20歳～69歳の登録モニタ。調査はインターネットで行う。条件は、①子供と同居しており、長子の属性が未就学児（5歳・6歳）、小学1年生～高校3年生のいずれかである。②長子がインターネットに接続しているスマートフォンを利用している。ただし、利用とは専用に限らず、兄弟との共同での利用なども含まれる。
- サンプルサイズ：条件に合う保護者6,500名を対象とした。青少年の性別・学年によって均等割り付け*を行った（図表1）。実際の分析の際は、各学年・性別におけるスマートフォン利用率（図表2）によるウェイトバック**をした。

図表1 サンプルサイズ

学齢	男子	女子	合計
未就学（5～6歳）	250	250	500
小学1年生	250	238	488
小学2年生	250	250	500
小学3年生	250	250	500
小学4年生	250	250	500
小学5年生	250	250	500
小学6年生	250	250	500
中学1年生	250	252	502
中学2年生	250	252	502
中学3年生	250	252	502
高校1年生	250	252	502
高校2年生	250	252	502
高校3年生	250	252	502
合計	3250	3250	6500



図表2 青少年のスマートフォン利用率（学年/年齢・性別別）

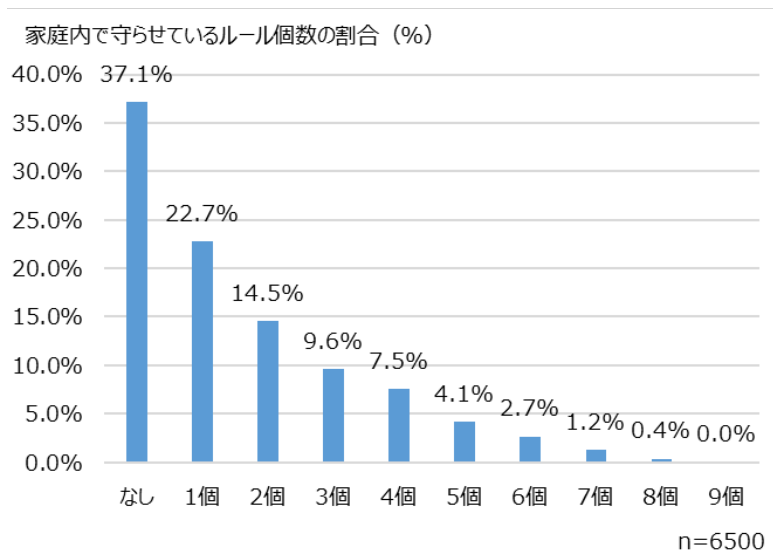
* ただし、長子が女子で小学1年生のサンプルが238件にとどまったため、長子が女子で中学1年生～高校3年生までの割付を252件としている。

** 調査分析に当たっては、青少年（未子）がスマートフォンを利用している人としている。しかし、均等割り付けを行ったまま分析してしまうと、スマートフォン利用率の低い層の説明力が過剰に高くなってしまふ。このような問題に対処するため、分析において図表1のスマートフォン利用率に応じて重み付けをし、社会の傾向に近い傾向を算出するのがウェイトバックである。

フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロールの状況

◆ 家庭内ルールを守らせている状況

- 家庭内ルールが1つもない家庭が37.1%存在する（図表3）。また、守らせている家庭内ルールの個数は、未就学（1.15個）や高校生（1.24個）では少ない、逆U字型の傾向となっている（図表4）。
- 家庭内ルールで特に守らせているものとして、「利用時間帯に関する約束」（24.8%）、「情報の取り扱いに関する約束」（25.6%）、「トラブル時は必ず相談する約束」（25.3%）が挙げられる。
- 年齢層によって傾向が異なり、未就学と小学低学年という低年齢層では、「利用時間帯に関する約束」「合計利用時間に関する約束」「親がいるところだけで使う」が多い一方で、小学校高学年以上になると「情報の取り扱いに関する約束」や「トラブル時に必ず相談する約束」が多くなる（図表4）。SNS利用が増えることや、親がいるところ以外でも使う機会が増えるためと考えられる。



図表3 家庭内で守らせているルール個数

図表4 家庭内ルールを守らせている状況（年齢別）

家庭内ルール	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
利用時間帯に関する約束	29.4%	35.2%	36.8%	31.8%	12.8%	24.8%
合計利用時間に関する約束	23.6%	25.7%	20.4%	14.0%	5.4%	12.5%
情報の取り扱いに関する約束	2.4%	15.9%	27.2%	30.1%	24.6%	25.6%
トラブル時は必ず相談する約束	5.0%	17.4%	26.1%	28.8%	24.9%	25.3%
友達の登録は知っている人だけ	2.6%	18.2%	30.7%	28.0%	16.9%	22.4%
投稿内容に関する約束	1.8%	9.1%	18.1%	24.9%	18.5%	19.4%
親がいるところだけで使う	41.8%	31.8%	17.2%	8.6%	2.2%	9.8%
お金に関する約束	3.4%	11.4%	18.2%	18.2%	16.9%	16.8%
その他	4.6%	3.5%	2.7%	2.7%	2.1%	2.5%
合計数の平均（個）	1.15	1.68	1.97	1.87	1.24	1.59

n=6500

フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロールの状況

◆ 家庭内ルール関連で知りたい情報

- どの家庭内ルールも多くの保護者が重要だと考えている（図表5）。
- 家庭内ルール関連で知りたい情報としては、「フィルタリングサービスの機能の活用の仕方」（30.4%）、「お子様の年齢に合わせた適切なルール」（29.5%）、「スマートフォンやインターネットのお子様への危険性」（28.9%）が多い（図表6）。
- 低年齢層では「お子様への適切なインターネットの利用の促し方」が高い傾向にあり、未就学では2番目に高い（図表6）。
- 合計数の平均を見るとでは、いずれも未就学や小学低学年といった低年齢層で多い。家庭内ルールを守らせている数は逆U字型であったが、低年齢層は家庭内ルールを重要で知りたいと考えている一方で、うまくルールを作ったり守らせたりできていないといえる（図表5, 6）。

図表5 家庭内ルールを重要だと思う割合

家庭内ルール	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
利用時間帯に関する約束	81.6%	84.6%	81.2%	79.6%	57.8%	71.1%
合計利用時間に関する約束	77.6%	80.1%	74.8%	70.4%	52.8%	64.6%
情報の取り扱いに関する約束	84.4%	85.0%	84.2%	82.7%	73.4%	79.2%
トラブル時は必ず相談する約束	85.2%	88.7%	87.6%	84.5%	79.0%	83.0%
友達の登録は知っている人だけ	82.4%	86.6%	84.7%	82.2%	72.4%	78.8%
投稿内容に関する約束	86.6%	87.3%	85.5%	82.5%	75.4%	80.5%
親がいるところだけで使う	74.6%	70.8%	55.8%	45.7%	25.8%	41.5%
お金に関する約束	87.0%	86.3%	83.7%	80.1%	75.2%	79.3%
その他	85.0%	84.8%	83.2%	79.9%	69.8%	76.6%
合計数の平均（個）	7.4	7.5	7.2	6.9	5.8	6.5

n=6500

図表6 知りたい家庭内ルール関連情報（年齢別）

知りたい家庭内ルール関連情報	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
お子様への適切なインターネットの利用の促し方	41.4%	35.4%	32.7%	28.6%	19.4%	26.1%
家庭内でのインターネット利用に関するルールの必要性	25.4%	25.0%	24.6%	21.8%	15.1%	19.7%
フィルタリングサービスの機能の活用の仕方	38.8%	40.0%	36.7%	33.3%	23.5%	30.4%
お子様の年齢に合わせた適切なルール	47.4%	40.5%	37.7%	30.3%	22.9%	29.5%
家庭のルールを決める適切な方法・プロセス	30.6%	26.7%	26.7%	23.3%	17.1%	21.6%
困ったときに相談する先	33.4%	29.8%	29.6%	26.5%	27.4%	27.7%
スマートフォンやインターネットのお子様への危険性	38.4%	38.0%	35.3%	30.9%	22.7%	28.9%
お子様のインターネット利用状況に合わせた適切なルール	35.0%	33.6%	33.4%	30.4%	22.0%	27.7%
その他	1.4%	0.8%	0.6%	0.7%	1.1%	0.9%
合計数の平均（個）	2.92	2.70	2.57	2.26	1.71	2.12

n=6500

フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロールの状況

◆ 家庭内ルールを知った方法と知りたい方法

- 家庭内ルールを知ったきっかけは、年齢による違いはほとんどなく、どの年齢でも「インターネットで家庭内のルールに関する情報を見て」と「友人や保護者同士の会話の中で聞いて」が高く、全体ではそれぞれ33.0%、26.4%となっている。他には、「テレビや本、パンフレットを見て」（19.6%）と「学校や保育園・幼稚園等での説明を受けて」（20.2%）が高い。
- 家庭内ルールを知りたい方法についても、「インターネットで知ることができる」と「友人や保護者同士の会話で知ることができる」が高く、知ったきっかけと概ね同じ傾向である。ただし、低年齢では「学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる」の需要が高い。
- ギャップは、「インターネットで知ることができる」がどの年齢でも最も高い。また、「アプリで知ることができる」も未就学以外ではベスト3に入っている。他には、やはり未就学～小学高学年で「学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる」のギャップが大きい。

図表7 家庭内ルールを知ったきっかけと知りたい方法（年齢別）

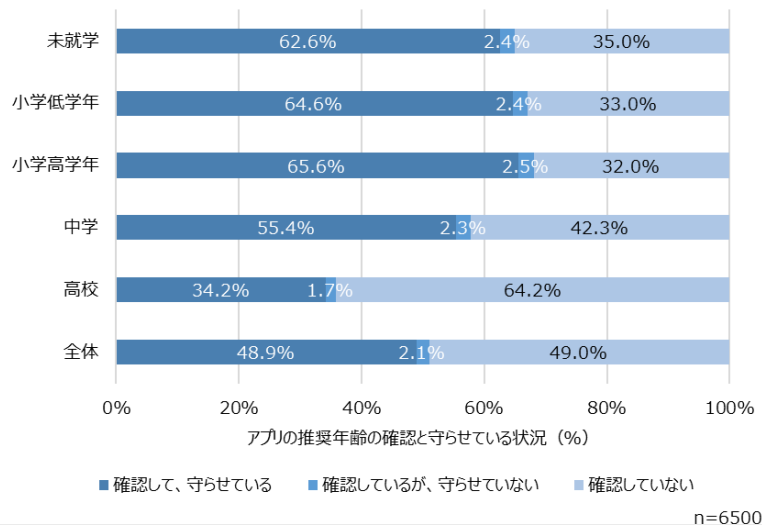
家庭内ルールを知ったきっかけ・知りたいと思う方法		未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
家庭内ルールを知ったきっかけ	インターネットで家庭内のルールに関する情報を見て	21.3%	30.9%	31.2%	33.1%	35.2%	33.0%
	友人や保護者同士の会話の中で聞いて	20.3%	25.2%	27.4%	26.9%	26.1%	26.4%
	テレビや本、パンフレットを見て	11.4%	15.1%	18.5%	17.8%	23.6%	19.6%
	販売店での説明を受けて	2.5%	4.9%	6.5%	7.2%	6.9%	6.6%
	学校や保育園・幼稚園等での説明を受けて	6.4%	16.6%	18.1%	20.2%	23.1%	20.2%
	国や地方公共団体や民間団体が行う講座に参加して	1.0%	2.5%	3.2%	2.5%	2.6%	2.6%
	病院（産科・小児科等）で教えてもらって	1.7%	1.0%	1.8%	1.1%	0.6%	1.0%
	アプリで知って	2.0%	3.4%	2.8%	3.3%	2.9%	3.1%
	その他	5.4%	4.9%	3.8%	5.1%	5.8%	5.1%
	特にきっかけはない・覚えていない	52.2%	40.1%	35.5%	34.2%	30.8%	34.2%
家庭内ルールを知りたい方法	インターネットで知ることができる	47.6%	50.7%	50.8%	50.7%	48.0%	49.5%
	友人や保護者同士の会話で知ることができる	36.2%	33.7%	34.3%	28.2%	25.3%	28.6%
	テレビや本、パンフレットで知ることができる	24.2%	20.7%	23.3%	18.5%	18.6%	19.6%
	販売店での説明で知ることができる	10.4%	10.9%	11.7%	12.3%	11.9%	11.9%
	学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる	34.0%	30.8%	28.1%	23.6%	21.5%	24.2%
	国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	6.8%	7.9%	7.0%	6.4%	6.8%	6.8%
	病院（産科・小児科等）で教えてもらうことができる	9.8%	6.6%	4.0%	2.5%	2.5%	3.2%
	アプリで知ることができる	13.2%	14.4%	12.6%	13.4%	12.9%	13.1%
	その他	2.4%	2.1%	1.6%	1.7%	2.5%	2.1%
	特に知りたいと思わない	24.2%	21.4%	21.3%	25.1%	30.3%	26.4%
家庭内ルールを知ったきっかけと知りたい方法のギャップ	インターネットで知ることができる	-26.3%	-19.8%	-19.6%	-17.6%	-12.8%	-16.5%
	友人や保護者同士の会話で知ることができる	-15.9%	-8.5%	-6.9%	-1.3%	0.8%	-2.2%
	テレビや本、パンフレットで知ることができる	-12.8%	-5.5%	-4.8%	-0.6%	5.0%	0.0%
	販売店での説明で知ることができる	-7.9%	-6.0%	-5.2%	-5.1%	-5.0%	-5.2%
	学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる	-27.5%	-14.2%	-10.0%	-3.4%	1.7%	-4.0%
	国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	-5.8%	-5.5%	-3.8%	-3.9%	-4.2%	-4.2%
	病院（産科・小児科等）で教えてもらうことができる	-8.1%	-5.7%	-2.2%	-1.4%	-2.0%	-2.2%
	アプリで知ることができる	-11.2%	-11.0%	-9.8%	-10.1%	-9.9%	-10.1%
	その他	3.0%	2.8%	2.2%	3.4%	3.2%	3.0%

n=4995, 6500, 6500

フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロールの状況

◆ フィルタリングサービス以外の機能的ペアレンタルコントロール状況

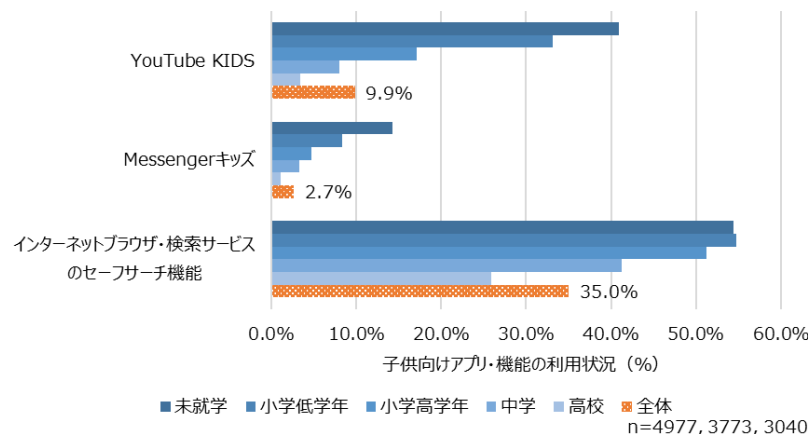
- 利用が推奨されないアプリ・サービスが多い中学生までは確認して守らせている割合が高いが高校生になるとあまり確認していない。また、未就学～小学生であっても、32.0～35.0%はアプリ・サービスの対象年齢・推奨年齢を確認していない（図表8）。
- フィルタリングサービス以外の機能的対策は、どの年齢でも「利用していない」が突出して多い。全体的には「アプリ内の設定をしている」と「時間管理アプリや機能を導入している」が多いが、それぞれ15.4%と13.3%にとどまる（図表9）。
- 「インターネットブラウザ・検索サービスのセーフサーチ機能」の利用率は高い（35.0%）ものの、「YouTube KIDS」（9.9%）、「Messengerキッズ」（2.7%）の利用率は低い。未就学での「YouTube KIDS」利用率は40.9%と比較的高い。ただし、まだ対象であるにもかかわらず、小学高学年では17.1%にまで低下する（図表10）。



図表8 アプリの推奨年齢の確認と守らせている状況（年齢別）

図表9 フィルタリングサービス以外の機能的対策（年齢別）

フィルタリングサービス以外の機能的対策	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
アプリ内の設定をしている	14.4%	20.0%	22.9%	19.6%	8.7%	15.4%
SNSの利用監視サービス（Filli等）を導入している	8.4%	8.5%	8.2%	7.6%	4.3%	6.4%
時間管理アプリや機能を導入している	10.6%	15.0%	18.0%	17.5%	8.3%	13.3%
子供用のアプリ（KIDSバージョンなど）を利用している	23.4%	19.1%	13.4%	6.0%	2.0%	6.9%
その他	1.2%	1.5%	1.8%	2.9%	2.3%	2.3%
利用していない	60.6%	58.0%	56.9%	63.0%	81.5%	69.4%



図表10 子供向けアプリ・機能の利用状況（年齢別）*

* 図表10の分母は、それぞれ「動画共有サービス」「メッセージアプリ」「インターネットブラウザ・検索サービス」の利用者である。

フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロールの状況

◆ 家庭内ルールを守らせている人の特徴

図表11 守らせている家庭内ルールの個数とそれぞれの要素の主たる関係まとめ*

分類	概要
青少年管理	<ul style="list-style-type: none"> 「<u>フィルタリングサービス利用者</u>」や、「<u>アプリの推奨年齢・対象年齢を守らせている</u>」場合は、<u>守らせている家庭内ルールの個数が多い傾向</u>。
利用アプリ・サービス	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に、<u>アプリ・サービスを利用している家庭の方が家庭内ルールが多い傾向</u>。 特に、「<u>メッセージアプリ</u>」を利用している家庭では<u>家庭内ルールを守らせている個数が多い傾向</u>。 「<u>動画共有サービス</u>」「<u>SNS</u>」「<u>フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト</u>」では<u>相対的に家庭内ルールを守らせている個数が少ない傾向</u>。
スマートフォン利用形態	<ul style="list-style-type: none"> 「<u>親と共用・親の前のみ</u>」と「<u>親と共用</u>」では特に<u>家庭内ルールの個数が多い傾向</u>。
その他の属性	<ul style="list-style-type: none"> 「<u>同居している子供の数</u>」が多い、「<u>保護者と子供の接している時間</u>」が長い、「<u>保護者のスマートフォン利用歴</u>」が長い、といった場合に、<u>守らせている家庭内ルールの個数が多い傾向</u>。 「<u>子供のスマートフォン利用時間</u>」が長いと、<u>守らせている家庭内ルールが少ない傾向</u>。 青少年の年齢が<u>10歳程度の時が最も家庭内ルールの個数が多く</u>、年齢がそれより離れるにつれて<u>少なくなっていく傾向</u>。

※以下の回帰分析モデルで検証

$$\begin{aligned}
 Rule_n_i &= \alpha + \beta_1 Filter_i + \beta_2 App_age_i + \gamma_1 App_i \\
 &+ \gamma_2 Smartphone_i + \gamma_3 Characteristics_i + \varepsilon_i
 \end{aligned}$$

ただし、各記号は以下を指す。

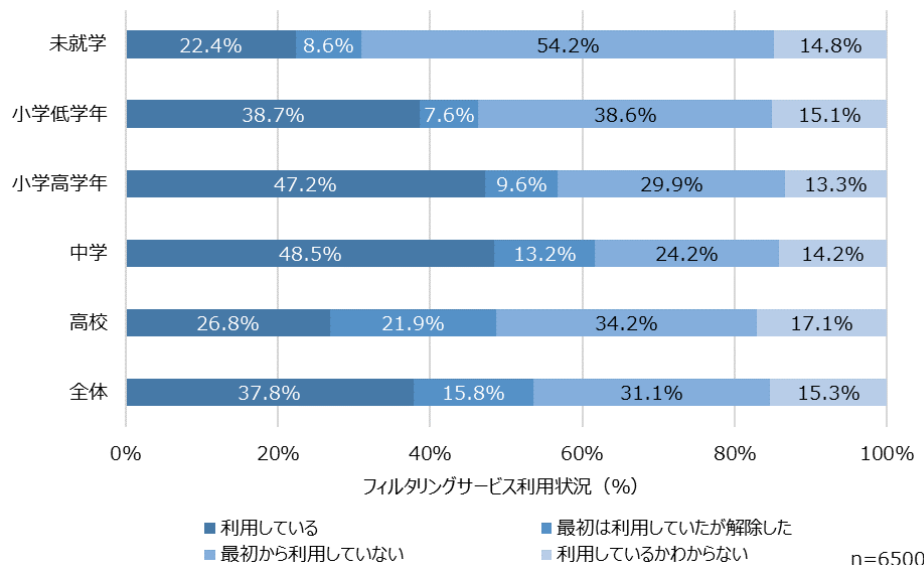
- $Rule_n_i$: 保護者が、長子のスマートフォンでのインターネット利用に関して守らせている家庭内ルールの数。0以上9以下。
- $Filter_i$: 保護者がフィルタリングサービスを利用していたら1とするダミー変数。
- App_age_i : アプリの推奨年齢・対象年齢を確認したうえで守らせていれば1とするダミー変数。 $Filter_i$ と同様、保護者による青少年のインターネット利用管理に関する変数。
- App_i : 各アプリを利用していれば1とするダミー変数のベクトル。
- $Smartphone_i$: スマートフォン利用形態ベクトル。図表2.3の区分に従っており、「専用」「兄弟共用」「親と共用・親の前のみ」「親と共用」「その他」「わからない」の6つある。実際の分析においては「わからない」を基準とする。
- $Characteristics_i$: 個人iとその子供に関する属性のベクトル。具体的には、「同居している子供の数(人)」「子供の年齢(歳)とその2乗項」「子供の性別」「子供のスマートフォン利用時間(時間/日)」「保護者と子供の接している時間(時間/日)」「保護者のスマートフォン利用歴(年)」である。
- $\alpha, \beta_1, \beta_2, \gamma_1, \gamma_2, \gamma_3, \varepsilon_i$: それぞれのベクトルにかかったパラメータと誤差項。この内、 β_1, β_2 は青少年のICT利用に関する管理と家庭内ルールの数との関係を示す。

* 詳細な分析結果は付録の図表A1を参照。

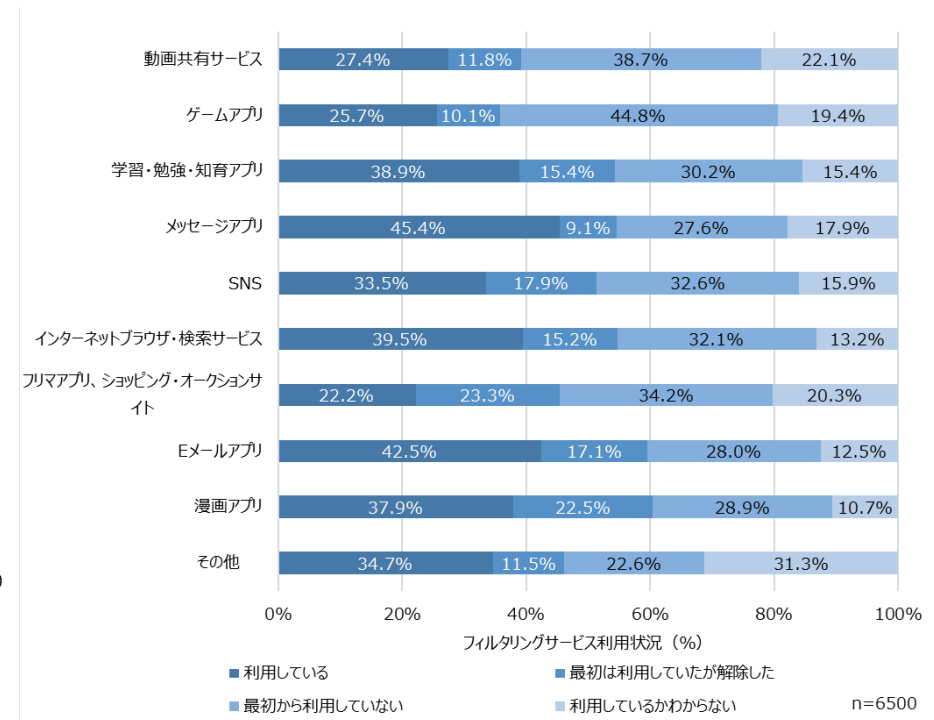
フィルタリングサービスの状況

◆ フィルタリングサービスの利用状況

- フィルタリングサービスは、全体では37.8%が利用しており、特に未就学と高校生では少ない（図表12）。
- 利用しているアプリ・サービス別では、「動画共有サービス」「ゲームアプリ」「フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト」での利用が少ない。理由としては、小さい子供にこれらのアプリ・サービスを使わせたい場合に制限がかかるためと予想される。特に「動画共有サービス」「ゲームアプリ」は小学生でも利用率が高いが、フィルタリングサービスでは制限されていることが多い（図表13）。
- 「動画共有サービス」「フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト」利用者は、家庭内ルールが少なく（図表11）、フィルタリングサービスも利用していない傾向にある（図表13）といえる。



図表12 フィルタリングサービス利用状況（年齢別）



図表13 フィルタリングサービス利用状況（アプリ・サービス別）

フィルタリングサービスの状況

◆ フィルタリングサービスで利用している機能と有益だと思う機能

- 利用しているフィルタリングサービスの機能では、「Webフィルタリング機能」が最多の76.2%で、「アプリフィルタリング機能」が45.8%、スマートフォンの利用可能時間帯の設定・制限が40.8%と続く。この傾向は年齢によってもほとんど変わらないが、小学低学年と高学年においては、相対的に「位置情報検索機能」の利用率が高い（図表14）。
- 有益だと思う人の割合は、「Webフィルタリング機能」（78.0%）、「アプリフィルタリング機能」（73.8%）、「アプリ内課金を保護者に通知する機能」（73.9%）の3つがどの年齢でも高かった（図表15）。
- 「アプリ内課金を保護者に通知する機能」はニーズが高い一方で、設定している人が少ない機能といえる（図表14、15）。

図表14 利用しているフィルタリングサービスの機能（年齢別）

利用しているフィルタリングサービスの機能	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
Webフィルタリング機能	66.1%	71.0%	75.5%	75.4%	79.5%	76.2%
アプリフィルタリング機能	42.0%	46.0%	53.2%	46.8%	39.9%	45.8%
スマートフォン利用可能時間帯の設定・制限機能	40.2%	37.8%	41.3%	48.3%	31.2%	40.8%
利用状況の確認機能	26.8%	27.6%	28.4%	29.9%	21.3%	26.8%
位置情報検索機能	18.8%	39.5%	43.7%	35.0%	27.7%	34.7%
設定の遠隔操作機能	12.5%	14.6%	17.5%	12.1%	8.2%	12.2%
インターネット検索のセーフサーチ機能	15.2%	21.6%	23.9%	23.1%	17.6%	21.4%
歩きスマホ防止機能	3.6%	5.2%	4.0%	3.4%	4.2%	3.9%
アプリ内課金を保護者に通知する機能	15.2%	22.5%	25.4%	19.1%	14.9%	19.3%
その他	7.1%	1.7%	2.1%	1.9%	3.2%	2.4%

n=2513

図表15 有益だと思うフィルタリングサービスの機能（年齢別）

有益だと思うフィルタリングサービスの機能	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
Webフィルタリング機能	82.4%	85.5%	82.3%	80.8%	72.5%	78.0%
アプリフィルタリング機能	83.0%	83.6%	80.1%	77.5%	66.3%	73.8%
スマートフォン利用可能時間帯の設定・制限機能	80.0%	79.4%	76.1%	70.2%	56.6%	66.3%
利用状況の確認機能	72.6%	76.7%	73.3%	64.5%	52.6%	62.0%
位置情報検索機能	75.8%	79.6%	76.1%	68.8%	60.8%	67.6%
設定の遠隔操作機能	71.6%	75.3%	70.6%	63.3%	52.6%	61.1%
インターネット検索のセーフサーチ機能	76.8%	79.5%	74.6%	67.7%	55.6%	64.8%
歩きスマホ防止機能	74.0%	74.7%	68.4%	63.1%	56.4%	62.3%
アプリ内課金を保護者に通知する機能	85.2%	82.9%	80.8%	75.0%	68.1%	73.9%

n=6500

フィルタリングサービスの状況

◆ フィルタリングサービス利用にあたって何を重視するか

- フィルタリングサービス利用にあたり、「子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる」(69.0%)、「子供のスマートフォン利用時間を把握することができる」(68.1%)、「無料で利用できる」(80.4%)の3つを重視する人が多い(図表16)。
- 「ワンタッチでフィルタリングサービスのON/OFFを切り替えられる」はまだ実現していない機能であるが、特に低年齢層でニーズが高く、未就学と小学低学年では70%以上が重要と考えている(図表16)。
- 「無料で利用できる」以外についてひと月当たり最大いくらまで支払ってよいかを調査した結果、ここで提示した要素全てを網羅している場合、平均して483.3円/月のニーズがあることが分かった。また、その金額は概ね低年齢の方が高い傾向にある(図表17)。
- 特に支払い意思額の高い「子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる」「サイトの閲覧履歴を保護者が確認する機能がある」はフィルタリングサービスで既に可能なものであり、「SNSでどのようなメッセージをやり取りしているかを確認する機能がある」もペアレンタルコントロールサービスで実現している。効果と使い方を分かりやすく啓発すれば、より多くの人々がフィルタリングサービスやペアレンタルコントロールサービスを利用する可能性がある(図表17)。

図表16 フィルタリングサービスで重視する要素(年齢別)

フィルタリングサービスの各要素	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる	78.6%	80.3%	77.7%	69.5%	62.7%	69.0%
スマートフォンに入っているアプリを保護者が確認する機能がある	81.0%	80.2%	78.0%	68.8%	56.0%	66.0%
サイトの閲覧履歴を保護者が確認する機能がある	74.8%	77.8%	77.2%	65.5%	52.1%	62.9%
SNSでどのようなメッセージをやり取りしているかを確認する機能がある	67.6%	71.9%	68.1%	57.6%	43.0%	54.5%
子供がどのような操作をしているかをモニタリングする機能がある	69.0%	72.2%	69.0%	60.0%	46.7%	57.0%
子供のスマートフォン利用時間を把握することができる	81.4%	80.3%	77.5%	71.6%	58.9%	68.1%
ワンタッチでフィルタリングサービスのON/OFFを切り替えられる	71.2%	73.5%	68.9%	62.0%	51.9%	60.0%
無料で利用できる	84.0%	84.3%	83.6%	80.7%	78.1%	80.4%
平均	76.0%	77.6%	75.0%	67.0%	56.2%	64.7%

n=6500

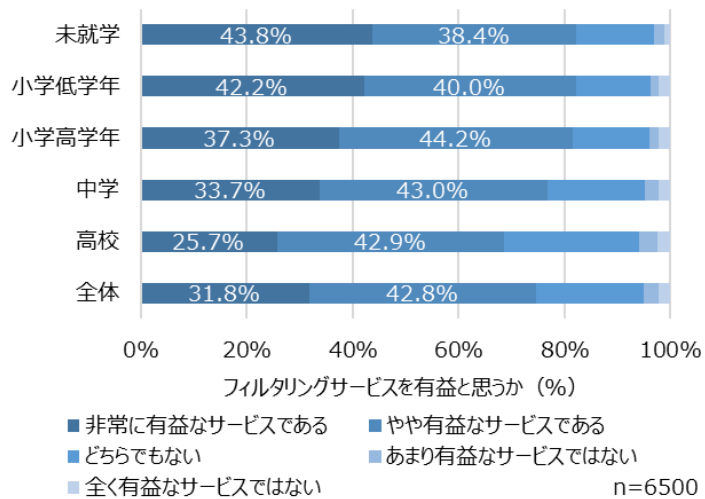
図表17 フィルタリングサービスの各要素に対する支払い意思額(年齢別)

フィルタリングサービスの各要素	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる	115.0	104.3	104.5	86.1	59.0	79.6
スマートフォンに入っているアプリを保護者が確認する機能がある	101.6	89.5	94.6	74.3	51.2	69.5
サイトの閲覧履歴を保護者が確認する機能がある	113.5	91.7	94.5	77.7	52.3	71.4
SNSでどのようなメッセージをやり取りしているかを確認する機能がある	105.2	92.7	93.5	76.6	52.1	70.8
子供がどのような操作をしているかをモニタリングする機能がある	107.9	88.7	86.8	73.1	48.9	67.0
子供のスマートフォン利用時間を把握することができる	85.6	83.3	86.8	69.7	47.4	64.4
ワンタッチでフィルタリングサービスのON/OFFを切り替えられる	85.4	78.9	77.3	64.8	46.2	60.5
合計金額	714.2	629.1	638.1	522.4	357.2	483.3

n=6500

フィルタリングサービスの状況

◆ フィルタリングサービスの総合的な評価と知識



- フィルタリングサービスそのものについては、全体で74.6%の人が「非常に有益なサービスである」「やや有益なサービスである」のどちらかと考えており、とりわけ年齢が低いとその割合は高い。多くの人がフィルタリングサービスを有益と感じている一方で、利用者が多くないというパラドックスに陥っている（図表18）。
- フィルタリングサービスの理解度について、10問のテストの正答率を見ると、全体の平均正答率は41.7%で、ランダムに選択した場合よりも低い*（図表19）。
- 特に、「利用を許可したアプリからアクセスする場合、インターネット上の有害情報を遮断することはできない」と「フィルタリング設定は遠隔で変更できるので、お子様のスマートフォンから直接変更する必要はない」の正答率が低かった。「お子様の居場所を確認することができる」と「学齢や個別設定のほかに、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる」もやや低い。遠隔操作や居場所確認といったフィルタリングサービスの機能や、カスタマイズの方法などについての知識が正しく理解されていないといえる（図表19）。尚、フィルタリングサービスの知識が特に少なかったのは、若い男性保護者であった。

* 10項目の内正しいものを選択させる問題。すべて正しいので、全ての人が全問正解であれば全項目が100%となる。ランダムに選択すれば50%となる。

図表19 フィルタリングサービスの理解度 (年齢別)

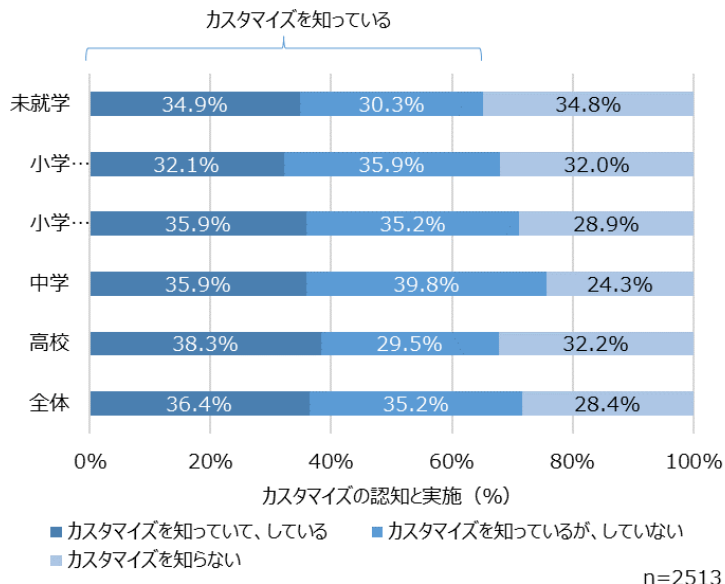
フィルタリングサービスの特徴として正しいと思うもの (全て正しい)	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
フィルタリング専用ブラウザでインターネットにアクセスする際に有害情報を遮断することができる	42.8%	44.8%	41.6%	45.6%	48.4%	46.0%
アプリの利用を制限することができる	58.4%	58.2%	56.7%	58.7%	59.6%	58.7%
スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる	43.8%	43.7%	46.1%	47.2%	44.5%	45.5%
利用を許可したアプリからアクセスする場合、インターネット上の有害情報を遮断することはできない	16.4%	17.4%	19.2%	20.8%	19.1%	19.5%
お子様の居場所を確認することができる	33.4%	40.8%	44.6%	40.1%	36.4%	39.2%
フィルタリングで規制されたアプリケーションは、後から利用できるように変更することができる	40.2%	40.8%	42.3%	45.6%	46.7%	45.0%
フィルタリングの対象年齢の設定はお子様の学齢に合わせて、複数のレベルで設定することができる	43.6%	41.1%	38.8%	41.7%	46.0%	43.1%
フィルタリング設定は遠隔で変更できるので、お子様のスマートフォンから直接変更する必要はない	24.0%	27.1%	31.4%	34.6%	33.5%	32.8%
有害サイトやアプリケーションの利用制限だけでなく、使い過ぎを防ぐ利用時間の制限ができる	46.6%	45.3%	46.9%	45.7%	45.5%	45.8%
学齢や個別設定のほかに、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる	44.4%	38.4%	37.2%	39.8%	45.0%	41.6%
平均	39.4%	39.8%	40.5%	42.0%	42.5%	41.7%

n=6500

フィルタリングサービスの状況

◆ フィルタリングサービスのカスタマイズの利用状況

- フィルタリングサービス利用者の中では全体で71.6%がカスタマイズを知っており、認知度は低くない。ただし実際に利用しているのは36.4%にとどまる。また、未就学ではやや認知率が低い（図表20）。
- カスタマイズで多く利用されているのは「スマートフォンで見られるWebサイトの個別許可」（50.8%）、「特定のアプリの個別許可」（51.3%）、「アプリのインストールの制限」（48.5%）であった。これらは概ねどの年齢でもニーズが高い（図表21）。
- カスタマイズしていない理由としては、「カスタマイズの存在を知らなかったから」（44.3%）が最も多く、2位が「カスタマイズの設定方法を知らなかったから」（27.6%）だった。面倒だとか必要性を感じなかったということより、そもそも存在や設定方法を知らないことがカスタマイズを利用しないことにつながっていると考えられる（図表22）。



図表21 利用しているカスタマイズ（年齢別）

利用しているカスタマイズ	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
スマートフォンで見られるWebサイトの個別許可	53.9%	58.7%	50.7%	45.8%	56.2%	50.8%
特定のアプリの個別許可	46.2%	50.0%	54.1%	52.2%	48.3%	51.3%
特定のアプリの個別制限	30.8%	35.6%	34.3%	32.5%	33.0%	33.2%
アプリのインストールの制限	50.0%	52.3%	54.7%	49.6%	40.9%	48.5%
利用時間のカスタマイズ	48.1%	36.7%	43.9%	49.0%	40.9%	44.7%
フィルタリング強度（年齢に合わせたモード等）の設定	40.4%	40.3%	47.9%	42.6%	46.0%	44.3%
その他	1.9%	0.9%	0.2%	1.7%	3.4%	1.8%
わからない	1.9%	2.3%	1.2%	3.1%	1.1%	2.1%

n=1262

図表22 カスタマイズしていない理由（年齢別）

カスタマイズをしていない理由	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
カスタマイズの存在を知らなかったから	42.8%	45.6%	49.5%	42.1%	43.9%	44.3%
カスタマイズが必要だと思わなかったから	23.8%	11.7%	13.5%	11.2%	4.1%	9.5%
カスタマイズの設定方法を知らなかったから	28.6%	26.6%	28.9%	27.3%	27.5%	27.6%
カスタマイズの設定が面倒だから	14.4%	10.9%	11.0%	9.3%	14.3%	11.4%
個別サイトやアプリの判断ができないから	4.7%	2.7%	2.5%	5.9%	5.1%	4.8%
その他	9.5%	10.1%	9.8%	13.1%	14.3%	12.7%

n=1251

図表20 カスタマイズの認知と実施（年齢別）

フィルタリングサービスの状況

◆ フィルタリングサービスを知った方法と知りたい方法

- フィルタリングサービスについて知ったきっかけとして多いのは「インターネットでフィルタリングサービスに関する情報を見て」（35.1%）、「販売店での説明を受けて」（28.4%）で、他よりかなり高い。
- 「販売店での説明を受けて」は低年齢層（とりわけ未就学）で少ないことから、親のスマートフォンを利用するケースなどが多く、販売店で説明を受けていないことが多いことが推察される。
- 知りたい方法としては「インターネットで知ることができる」（63.6%）、「テレビや本、パンフレットで知ることができる」（23.3%）、「販売店での説明で知ることができる」（28.8%）が高い。
- ギャップについては、「インターネットで知ることができる」（-28.5%）、「学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる」（-11.9%）、「アプリで知ることができる」（-10.6%）が大きい。
- 特にインターネットでの分かりやすい情報伝達や啓発アプリの作成とともに、特に低年齢層における学校や保育園・幼稚園などでの説明が求められているといえる。

図表23 フィルタリングサービスを知ったきっかけと知りたい方法（年齢別）*

フィルタリングサービスを知ったきっかけ・知りたい方法		未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体	
知ったきっかけ	インターネットでフィルタリングサービスに関する情報を見て	33.3%	40.2%	34.8%	35.7%	33.8%	35.1%	
	友人や保護者同士の会話の中で聞いて	15.7%	18.8%	21.1%	17.3%	14.0%	16.7%	
	テレビや本、パンフレットを見て	15.0%	15.7%	15.2%	14.0%	14.5%	14.6%	
	販売店での説明を受けて	10.6%	18.4%	23.6%	29.0%	32.6%	28.4%	
	学校や保育園・幼稚園等での説明を受けて	4.5%	8.4%	8.7%	10.8%	10.2%	9.9%	
	国や地方公共団体や民間団体が行う講座に参加して	2.3%	2.8%	2.9%	1.8%	1.3%	1.9%	
	病院（産科・小児科等）で教えてもらって	1.2%	1.4%	1.3%	1.1%	0.5%	0.9%	
	アプリで知って	4.7%	4.7%	4.3%	4.8%	3.4%	4.1%	
	その他	5.2%	3.0%	3.1%	3.5%	2.8%	3.1%	
	特にきっかけはない・覚えていない	32.9%	25.2%	22.5%	20.0%	22.5%	22.1%	
	知りたい方法	インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	64.6%	64.0%	65.4%	63.7%	62.7%	63.6%
テレビや本、パンフレットで知ることができる		28.6%	25.7%	26.0%	22.8%	21.8%	23.3%	
販売店での説明で知ることができる		23.6%	26.9%	26.7%	30.3%	29.0%	28.8%	
学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる		30.6%	29.2%	25.7%	20.6%	19.3%	21.8%	
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる		10.2%	8.9%	9.0%	7.0%	6.3%	7.2%	
病院（産科・小児科等）で教えてもらうことができる		9.6%	6.0%	3.7%	2.4%	2.5%	3.1%	
アプリで知ることができる		18.6%	15.1%	15.1%	14.7%	14.3%	14.7%	
その他		2.4%	2.1%	1.3%	1.1%	2.2%	1.7%	
特に知りたいと思わない		13.4%	12.1%	12.4%	15.2%	18.2%	15.7%	
実際に知ったきっかけと知りたい方法のギャップ		インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	-31.3%	-23.8%	-30.6%	-27.9%	-29.0%	-28.5%
テレビや本、パンフレットで知ることができる		-13.6%	-10.0%	-10.8%	-8.8%	-7.4%	-8.7%	
販売店での説明で知ることができる	-13.0%	-8.4%	-3.0%	-1.3%	3.6%	-0.4%		
学校や保育園・幼稚園等での説明で知ることができる	-26.1%	-20.8%	-17.0%	-9.8%	-9.2%	-11.9%		
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	-7.9%	-6.1%	-6.0%	-5.1%	-5.0%	-5.4%		
病院（産科・小児科等）で教えてもらうことができる	-8.4%	-4.6%	-2.4%	-1.4%	-2.0%	-2.2%		
アプリで知ることができる	-13.9%	-10.4%	-10.8%	-9.9%	-10.9%	-10.6%		
その他	2.8%	0.8%	1.8%	2.4%	0.6%	1.4%		
特に知りたいと思わない	19.5%	13.1%	10.2%	4.9%	4.3%	6.4%		

n=5532, 6500, 5532

*知ったきっかけについては、「フィルタリングサービスを利用しているか分からない」という保護者以外に聞いている。また、「友人や保護者同士の会話で知ることができる」はフィルタリングサービスについて啓発するうえで施策に落とし込みにくいと、知りたい方法では空欄としている。

家庭内ルールとフィルタリングサービスの状況

◆ 家庭内ルールとフィルタリングサービス利用の関係

- ▶ フィルタリングサービス利用状況別に家庭内ルールを守らせている割合を確認すると、全ての家庭内ルールについて、フィルタリングサービス利用者が最も多く守らせており、2位との差も大きい。また、「親がいるところだけで使う」を除き、フィルタリングサービスを利用しているか分かっていない保護者が、家庭内ルールを守らせている割合が低い（図表24）。
- ▶ 図表11と同様、「他のペアレンタルコントロールをしているからフィルタリングサービスを利用していない」といった保護者が多いというよりもむしろ、青少年管理について意識が高い保護者と低い保護者がおり、前者はフィルタリングサービス利用もその他のペアレンタルコントロールも実施している一方で、後者は両方ともしていないといえる。
- ▶ 家庭内ルールを1つ以上守らせていてフィルタリングサービスを利用している保護者は30.2%いるのに対し、両方とも×の保護者も同程度（29.5%）存在する。このような家庭は青少年のインターネット利用に対してほとんど何も施策をとっていないということであり、適切な青少年保護策がとられるように積極的に啓発すべき対象といえる（図表25）。

図表24 フィルタリングサービス利用状況と各家庭内ルールを守らせている行動の関係

家庭内ルール	フィルタリングサービス利用の状況			
	利用している	解除した	利用していない	分からない
利用時間帯に関する約束	40.5%	16.4%	15.1%	14.3%
合計利用時間に関する約束	20.6%	8.1%	8.9%	4.7%
情報の取り扱いに関する約束	35.7%	29.2%	19.0%	10.6%
必ず相談する約束	33.1%	30.3%	19.4%	12.9%
友達の登録は知っている人だけ	34.5%	19.2%	14.6%	11.7%
投稿内容に関する約束	26.7%	23.7%	13.7%	8.3%
親がいるところだけで使う	12.7%	3.9%	10.5%	7.3%
お金に関する約束	20.9%	18.5%	14.8%	9.3%
その他	3.6%	2.2%	2.1%	1.1%
合計数の平均	2.3	1.5	1.2	0.8

n=6500

図表25 家庭内ルールとフィルタリングサービスの状況と人数

家庭内ルール	フィルタリングサービス	人数
○	○	30.2%
○	×	32.7%
×	○	7.6%
×	×	29.5%
		n=6500

トラブルの遭遇状況とペアレンタルコントロール・フィルタリングサービスの関係

◆ 心配しているトラブル

- 遭うことを心配しているトラブルとしては、「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどで、いじめや誹謗中傷が発生する問題」（58.6%）、「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたす問題」（52.5%）、「ワンクリック詐欺で、意図していない契約による多額の請求が来る問題」（47.4%）が多く、特に前者2つほどの年齢でも高い。
- 年齢別の違いでは、合計数の平均を見ると年齢が低い方が心配しているトラブルが多い。
- 未就学でのみ「オンライン（ゲームアプリや漫画アプリなど）で過度な課金（支払い）をしてしまう問題」が56.0%でTOP3に入っている。保護者のスマートフォンを利用している青少年も多いため、登録されているクレジットカードなどで過剰な支払いをする可能性を危惧していると考えられる。

図表24 遭うことを心配しているトラブル（年齢別）

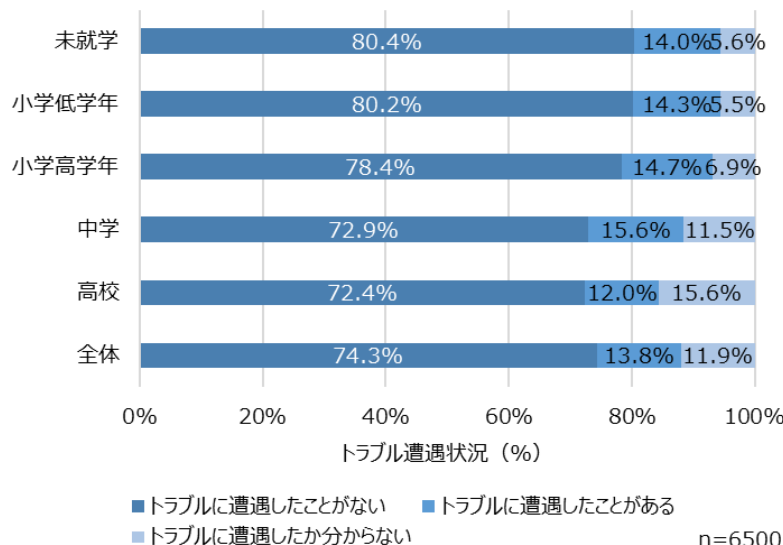
トラブル	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
SNS・メッセージアプリ・ゲームなどで、いじめや誹謗中傷が発生する問題	61.6%	63.0%	66.9%	65.9%	49.1%	58.6%
インターネットを通じた知り合いとの性的な自画撮りの送受信や、実際に会って性的暴行を受ける問題	48.3%	48.5%	46.8%	38.7%	28.8%	36.8%
インターネット上にある薬物や犯罪などの情報を見たい事件に巻き込まれる問題	53.4%	54.3%	51.6%	47.9%	35.9%	44.0%
インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたす問題	63.0%	58.1%	55.9%	55.3%	47.6%	52.5%
フィッシング詐欺などに遭い、自宅の連絡先や学校などの個人情報が漏洩してしまう問題	48.0%	45.0%	46.4%	45.8%	42.8%	44.6%
フリマアプリやECサイトで過剰に物を買ってしまう問題	34.6%	29.8%	23.6%	20.0%	18.1%	20.9%
オンライン（ゲームアプリや漫画アプリなど）で過度な課金（支払い）をしてしまう問題	56.0%	48.4%	38.8%	31.3%	25.4%	31.9%
歩きスマホ・ながらスマホでけがをしたり（させたり）物を壊してしまう問題	44.0%	41.7%	40.2%	39.8%	41.2%	40.7%
ワンクリック詐欺で、意図していない契約による多額の請求が来る問題	55.8%	51.7%	48.6%	48.2%	45.1%	47.4%
合計数の平均	4.65	4.40	4.19	3.93	3.34	3.77

n=6500

トラブルの遭遇状況とペアレンタルコントロール・フィルタリングサービスの関係

◆ トラブルの遭遇状況

- 多くの人（74.3%）がトラブルに遭遇したことがない。ただし、高校生は「トラブルに遭遇したことがある」人こそ相対的にやや少ないものの、「トラブルに遭遇したか分からない」人が非常に多く、結局「トラブルに遭遇したことがない」人は年齢が上がるにつれて少ない。「トラブルに遭遇したか分からない」の中には実際には遭遇しているケースも少なくない可能性がある（図表25）。
- 遭遇経験の多いトラブルとしては、「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた」（3.7%）、「インターネットを通じた知り合いに性的な自画撮りを送って（受け取って）しまったり、実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）」（2.5%）、「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまったり」（5.1%）が多い（図表26）。
- 性的な自画撮りに関しては、心配している保護者が相対的に少なかった（図表24）が、実際には遭遇している青少年が少なくないといえる（図表26）。



図表25 トラブル遭遇状況（年齢別）

図表26 各トラブル遭遇経験（年齢別）

トラブル	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた	4.0%	4.5%	3.1%	4.7%	2.9%	3.7%
インターネットを通じた知り合いに性的な自画撮りを送って（受け取って）しまったり、実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）	2.8%	3.9%	4.2%	2.9%	1.3%	2.5%
インターネット上でアダルトサイトや薬物・犯罪情報など、不適切な内容を見てしまった	4.0%	2.7%	4.0%	2.4%	1.7%	2.4%
インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまったり	3.2%	3.9%	4.6%	6.3%	4.7%	5.1%
フィッシング詐欺などに遭い、自宅の連絡先や学校などの個人情報が見えたり	0.8%	1.3%	1.1%	0.9%	0.7%	0.9%
アプリやECサイトで過剰に物を買ってしまった	1.6%	1.2%	0.2%	0.9%	0.9%	0.8%
オンライン（ゲームアプリや漫画アプリなど）で過度な課金（支払い）をしてしまった	2.2%	1.6%	2.2%	2.6%	2.1%	2.2%
歩きスマホ・ながらスマホで物が壊れたり（させたり）物を壊してしまったり	1.2%	1.7%	1.4%	1.4%	1.3%	1.3%
ワンクリック詐欺に遭い、意図していない契約による多額の請求が来てしまった	1.8%	0.9%	0.8%	0.9%	0.9%	0.9%
その他	0.2%	0.5%	0.6%	0.9%	0.8%	0.8%
合計数の平均	0.22	0.22	0.22	0.24	0.17	0.21

n=6500

トラブルの遭遇状況とペアレンタルコントロール・フィルタリングサービスの関係

◆ トラブル対応方法

- トラブル対応方法としては、最も多いのが「スマートフォンを利用するときのルールを厳しくした」（33.9%）で、「無視をするように子供に言った」（21.2%）と「一定期間スマートフォンの利用を禁止した」（21.2%）も多い。
- 対応方法はトラブル事象によって大きく異なる。いじめ・誹謗中傷や性的な自撮りといったやり取りに関するトラブルでは、「無視をするように子供に言った」や「学校に相談した」が多い。ただし、性的な被害については、「ネットトラブルの専門窓口相談した」も多い。
- それ以外では、「スマホ利用時のルールを厳しくした」が非常に多い傾向にあり、多くのトラブルにおいて「一定期間スマホの利用を禁止した」も多い。個人情報漏洩については「周囲の知人に相談した」が最も多く、個人情報漏洩については周囲に相談できることがトラブルにおいて支えになるといえる。

図表27 直近で発生したトラブルへの対応（トラブル別）*

トラブル	無視をするように子供に言った	学校に相談した	ネットトラブルの専門窓口相談した	周囲の知人に相談した	スマホ利用時のルールを厳しくした	一定期間スマホの利用を禁止した	問題の発生したアプリを削除した	フィルタリングサービスを利用するようになった	警察や弁護士に通報・相談した	その他	特に対応はしていない
SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた	46.7%	42.1%	5.0%	19.6%	14.8%	10.9%	5.0%	5.5%	2.7%	2.7%	8.7%
ネットを通じた知り合いに性的な自撮りを送って（受け取って）しまったり、実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）	35.9%	30.7%	18.3%	12.4%	4.8%	13.5%	6.2%	7.1%	6.0%	0.4%	8.1%
インターネット上でアダルトサイトや薬物・犯罪情報など、不適切な内容を見てしまった	28.5%	6.0%	9.2%	13.8%	30.6%	10.0%	7.3%	17.2%	3.8%	7.2%	7.5%
インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまったり	2.9%	7.2%	4.4%	10.6%	51.3%	33.8%	7.8%	10.4%	0.1%	11.6%	14.5%
フィッシング詐欺などに遭い、自宅の連絡先や学校などの個人情報漏洩してしまった	26.6%	0.0%	21.0%	35.7%	22.5%	12.4%	22.7%	22.4%	0.0%	14.0%	0.0%
フリマアプリやECサイトで過剰に物を買ってしまった	12.3%	12.8%	2.4%	13.7%	48.0%	14.5%	20.7%	13.5%	1.2%	14.3%	6.8%
オンライン（ゲームアプリや漫画アプリなど）で過度な課金（支払い）をしてしまった	4.6%	2.6%	13.0%	6.7%	50.8%	31.1%	27.6%	19.4%	2.4%	14.2%	9.0%
歩きスマホ・ながらスマホだけがしたり（させたり）物を壊してしまったり	18.9%	5.6%	1.6%	7.3%	38.3%	15.8%	1.6%	7.2%	4.6%	0.0%	11.8%
ワンクリック詐欺に遭い、意図していない契約による多額の請求が来てしまった	54.2%	3.4%	14.2%	15.0%	34.7%	18.9%	14.6%	12.9%	5.0%	13.4%	3.4%
その他	16.4%	0.9%	1.8%	8.5%	20.8%	13.6%	18.6%	9.5%	10.4%	34.8%	18.0%
全体	21.2%	15.3%	7.7%	12.8%	33.9%	21.2%	10.2%	11.0%	2.7%	9.3%	10.6%

* 本図表では、トラブルごとにTOP3を色付けしている。つまり、各行のTOP3が色付けされている。

n=923

トラブルの遭遇状況とペアレンタルコントロール・フィルタリングサービスの関係

◆ 家庭内ルール、フィルタリングサービス利用とトラブルに遭遇しないこととの関係

図表28 トラブルに遭遇しない傾向とそれぞれの要素の主たる関係まとめ*

分類	概要
青少年管理	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭内ルールあり・フィルタリングサービスあり」「家庭内ルールあり・フィルタリングサービスなし」の場合、「家庭内ルールなし・フィルタリングサービスなし」に比べてトラブルに遭遇しにくい傾向が顕著に見られた。一方、「家庭内ルールなし・フィルタリングサービスあり」ではそのような傾向は見られなかった。 「アプリの推奨年齢・対象年齢を守らせている」場合、トラブルに遭遇しにくい傾向が非常に強い。
利用アプリ・サービス	<ul style="list-style-type: none"> 「動画共有サービス」「メッセージアプリ」「インターネットブラウザ・検索サービス」を利用している人はトラブルに遭遇しにくい傾向。 「SNS」「フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト」「漫画アプリ」を利用している人はトラブルに遭遇したり、トラブルに遭遇しているか分からなかったりする傾向。
スマートフォン利用形態	<ul style="list-style-type: none"> 「親と共用・親の前のみ」と「親と共用」だとトラブルに遭遇しにくい傾向。 「専用」の方が「兄弟共用」よりトラブルに遭遇しにくい傾向。
その他の属性	<ul style="list-style-type: none"> 「保護者と子供の接している時間」が長い人や、「保護者のスマートフォン利用歴」が長い人はトラブルに遭遇しにくい傾向。 子供が「男子」である場合や、「子供のスマートフォン利用時間」が長い場合は、トラブルに遭遇しやすいか遭遇しているか分からない傾向。

* 詳細な分析結果は付録の図表A2を参照。

※以下の回帰分析モデルで検証

$$\text{Logit}[P(\text{Trouble}_i = 1)] = \log \left(\frac{P[\text{Trouble}_i]}{1 - P[\text{Trouble}_i]} \right)$$

$$= \alpha + \beta_1 \text{Rule_Fil}_i + \beta_2 \text{App_age}_i + \gamma_1 \text{App}_{it} + \gamma_2 \text{Smartphone}_i + \gamma_3 \text{Characteristics}_i$$

ただし、各記号は以下を指す。また、モデルはロジットモデルとなっている。

- Trouble_i : 保護者が、長子のスマートフォンでのインターネット利用に関してトラブル遭遇経験がなければ1とするダミー変数。
- $P(\text{Trouble}_i = 1)$: $\text{Trouble}_i = 1$ となる確率。
- Rule_Fil_i : 保護者iの家庭内ルールとフィルタリングサービス利用を表すベクトル。図表4.25の4分割に沿っており、「家庭内ルールあり・フィルタリングサービスあり」「家庭内ルールあり」「フィルタリングサービスあり」「家庭内ルールなし・フィルタリングサービスなし」の4種類となっている。実際の分析においては「家庭内ルールなし・フィルタリングサービスなし」を基準とする。
- App_age_i : アプリの推奨年齢・対象年齢を確認したうえで守らせていれば1とするダミー変数。 Rule_Fil_i と同様、保護者による青少年のインターネット利用管理に関する変数。
- App_i : 各アプリを利用していれば1とするダミー変数のベクトル。
- Smartphone_i : スマートフォン利用形態ベクトル。図表2.3の区分に従っており、「専用」「兄弟共用」「親と共用・親の前のみ」「親と共用」「その他」「わからない」の6つある。実際の分析においては「わからない」を基準とする。
- Characteristics_i : 個人とその子供に関する属性のベクトル。具体的には、「同居している子供の数（人）」「子供の年齢（歳）」「子供の性別」「子供のスマートフォン利用時間（時間/日）」「保護者と子供の接している時間（時間/日）」「保護者のスマートフォン利用歴（年）」である。
- $\alpha, \beta_1, \beta_2, \gamma_1, \gamma_2, \gamma_3$: それぞれのベクトルにかかったパラメータ。この内、 β_1, β_2 は青少年のICT利用に関する管理とトラブル遭遇の関係を示す。

實驗的調查

実験的調査方法

◆ 実験的調査の概要

- 調査時期：2022年3月1日～3月4日
- 調査対象：アンケート調査対象者の中で、図表29の割付に沿って取得した500名の保護者。
- 調査方法：全ての保護者に、青少年のインターネット利用に関する啓発フライヤー資料（図表30, 31）を見せ、見たことによって意識がどのように変化したかや、フライヤー資料による評価を調査する。フライヤー資料はよく読まれたかを確認するため、簡単なクイズを出題し、正解するまで回答できない仕様とする。

図表29 サンプルサイズ

年齢層	男子	女子	合計
未就学（5～6歳）	50	50	100
小学低学年	50	50	100
小学高学年	50	50	100
中学	50	50	100
高校	50	50	100
合計	250	250	500

図表30 啓発フライヤー（表面）*

保護者のみなさん、その心配を解決しましょう！

様々なアプリが「色々な心配」のタネに...

01 いじめ、誹謗中傷が心配... 「大人は頼れる」を伝えよう！

02 自撮り被害、わいせつ犯罪に巻き込まれてない? 「誰にでも起こること、私は怒らない」というメッセージをママに発信、相談できる関係を

03 架空請求、個人情報の漏洩、どうすれば... 「知識とウイルス対策ソフト」で対抗！

04 やりすぎ、使い過ぎ、やめられない... 「このルールはなぜ作る？」の意識共有が成功の鍵！

05 課金、フリマ、通販... 支払いは大丈夫? 「設定と正しい年齢登録」で安心を！

図表31 啓発フライヤー（裏面）

ご家庭でやれることはこれ！

01 いじめ、誹謗中傷が心配... 「誰にでも起こること、私は怒らない」というメッセージをママに発信、相談できる関係を

02 自撮り被害、わいせつ犯罪に巻き込まれてない? 「誰にでも起こること、私は怒らない」というメッセージをママに発信、相談できる関係を

03 架空請求、個人情報の漏洩、どうすれば... 「架空請求」で、本当に支払いが必要となるケースはほぼないので「取らない」

04 やりすぎ、使い過ぎ、やめられない... 利用期間、利用をやめる時刻のルール決めを

05 課金、フリマ、通販... 支払いは大丈夫? 未成年の課金期間があるサービスには、正しい年齢を登録して金額上限を有効化

フィルタリングサービスで解決！

いじめが起きやすいアプリのインストールは、制限機能を使って保護者が制限

成長に応じて、ダウンロードできるアプリを許可制に

違法・有害サイトへの接続を制限

アプリ毎に利用時間の上限を設定

必要な時は、保護者のスマホからお子さんのアプリを停止

お子さんの課金状況を把握

「課金はその都度、許可制」の設定を活用

* フライヤーの大きいverは付録参照。

実験的調査結果：意識の変化

◆ フライヤーを見ての意識の変化

- 「この中にはない」の人は全体で22.9%にとどまり、77.1%の人がフライヤーを見て何らかの意識変化があった。特に多いのが、「フィルタリングサービスの効果を知ることができた」(29.5%)、「フィルタリングサービスが学齢やインターネット利用状況によって柔軟に設定できることを知った」(26.0%)、「適切な対策を知ることができた」(23.3%)であった(図表32)。
- 低年齢層では、「フィルタリングサービスを利用しようと思った」や「家庭内ルールを新たに作ろうと思った」といった直接のアクションに関する意識変化が大きい。高校生では全体的に意識変化が小さく、「この中にはない」が最多である(図表32)。
- 「フィルタリングサービスあり・家庭内ルールあり」の人の意識変化が最も大きい一方、「フィルタリングサービスあり・家庭内ルールなし」と「フィルタリングサービスなし・家庭内ルールなし」では小さく「この中にはない」が最多である。既に施策をとっている保護者への効果は高いが、施策が不足している保護者への効果は相対的に低いといえる。ただしそれでも55%以上は何らかの意識変化がある(図表33)。

図表32 フライヤーを見ての意識変化(年齢別)

意識変化	未就学	小学低学年	小学高学年	中学	高校	全体
フィルタリングサービスを利用しようと思った	30.4%	17.1%	10.7%	8.0%	2.8%	8.0%
子供のスマートフォン利用に関する家庭内ルールを新たに作ろうと思った	20.0%	35.4%	19.9%	17.1%	11.0%	16.7%
フィルタリングサービスの効果を知ることができた	27.0%	33.4%	35.1%	33.4%	24.0%	29.5%
フィルタリングサービスが子供の学齢やインターネット利用状況によって柔軟に設定できることを知ることができた	27.0%	26.7%	27.3%	26.7%	18.0%	23.3%
子供のスマートフォン利用に関して心配していたことについて、適切な対策を知ることができた	32.0%	32.6%	25.9%	25.6%	16.0%	22.7%
子供の利用しているアプリに適した対策を知ることができた	19.0%	26.3%	20.6%	14.0%	11.0%	15.1%
今決めている子供のスマートフォン利用に関する家庭内ルールでは足りないと感じた	16.0%	21.7%	13.8%	19.0%	7.0%	13.4%
子供のスマートフォン利用全般に関して、適切な対策を知ることができた	31.0%	30.1%	27.2%	27.2%	23.0%	26.0%
子供のスマートフォン利用を適切に管理する自信がついた	5.0%	12.1%	5.5%	3.8%	4.0%	4.9%
この中にはない	16.0%	13.5%	8.8%	16.6%	36.0%	22.9%
合計数の平均	2.07	2.35	1.86	1.75	1.17	1.60

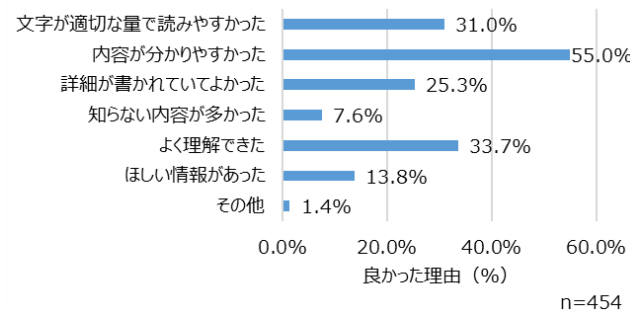
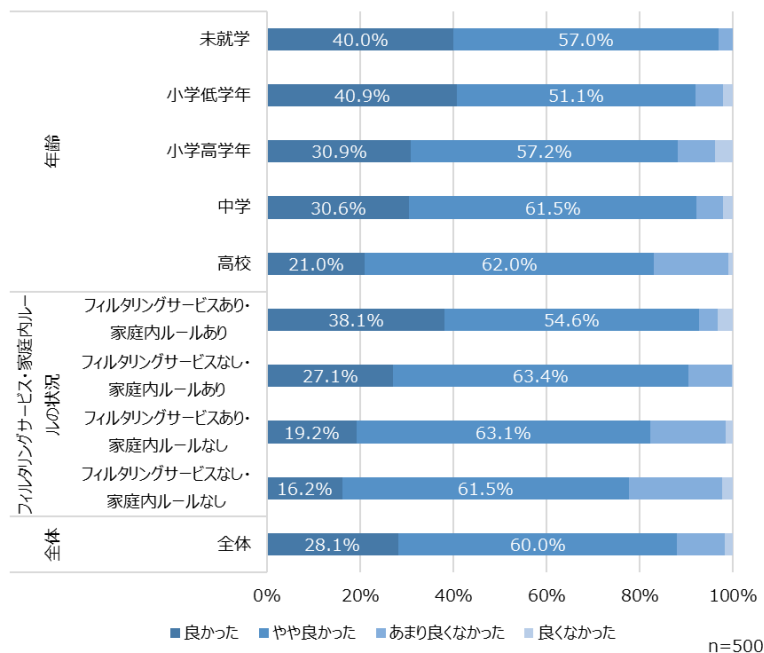
図表33 フライヤーを見ての意識変化(ペアレンタルコントロール状況別)

意識変化	フィルタリングサービスあり・家庭内ルールあり	フィルタリングサービスなし・家庭内ルールあり	フィルタリングサービスあり・家庭内ルールなし	フィルタリングサービスなし・家庭内ルールなし
フィルタリングサービスを利用しようと思った	0.0%	10.8%	0.0%	3.1%
子供のスマートフォン利用に関する家庭内ルールを新たに作ろうと思った	16.7%	20.2%	15.2%	10.8%
フィルタリングサービスの効果を知ることができた	35.8%	31.2%	10.7%	21.5%
フィルタリングサービスが子供の学齢やインターネット利用状況によって柔軟に設定できることを知ることができた	32.3%	21.4%	26.5%	11.3%
子供のスマートフォン利用に関して心配していたことについて、適切な対策を知ることができた	26.8%	25.2%	9.7%	15.1%
子供の利用しているアプリに適した対策を知ることができた	17.6%	15.9%	16.3%	9.4%
今決めている子供のスマートフォン利用に関する家庭内ルールでは足りないと感じた	15.0%	13.8%	10.7%	10.9%
子供のスマートフォン利用全般に関して、適切な対策を知ることができた	33.9%	25.5%	14.5%	17.0%
子供のスマートフォン利用を適切に管理する自信がついた	9.2%	3.0%	0.0%	2.6%
この中にはない	7.5%	21.6%	42.9%	44.9%
合計数の平均	1.87	1.67	1.04	1.02

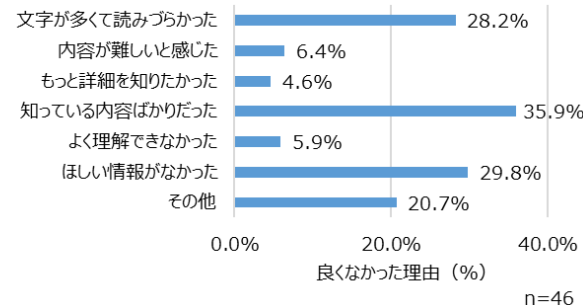
実験的調査結果：意識の変化

◆ フライヤーへの評価

- 全体的にフライヤーへの評価は高く、88.1%の人が「やや良かった」「良かった」と考えている。特に未就学では97.0%がそのように考えており、高いニーズがあるため、優先的にフライヤーで啓発すべき対象といえる。他方、意識変化と同様、「フィルタリングサービスあり・家庭内ルールなし」や「フィルタリングサービスなし・家庭内ルールなし」では相対的に「やや良かった」以上の人が少なかった（図表34）。
- 「やや良かった」以上の理由としては、「内容が分かりやすかった」（55.0%）が最多で、「よく理解できた」（33.7%）や「文字が適切な量で読みやすかった」（31.0%）も高かった。このように解決したい問題に対応した簡潔な資料はニーズが高いといえる（図表35）。
- 「あまり良くなかった」以下の理由としては、「知っている内容ばかりだった」（35.9%）が最多で、「ほしい情報がなかった」（29.8%）も高かった。ただし、「あまり良くなかった」以下の人の多くはペアレンタルコントロールをしていない保護者であり、知っていると過信しているだけの可能性もある。



図表35 良かった理由



図表36 良くなかった理由

図表34 フライヤーへの評価（年齢別・ペアレンタルコントロール状況別）

保護者・企業インタビュー調査

保護者インタビュー調査方法

◆ 保護者インタビュー調査の概要

- 調査時期：2021年11月28日～2022年2月28日
- 調査対象：調査会社（5000名対象）及び機縁法*を通じて抽出された保護者20名。
- 調査方法：オンライン（zoom）による個別インタビュー。1回あたり1時間～1時間半程度。
- 調査目的：保護者が子供の成長やICT利用状況に即した適切なペアレンタルコントロールを行う上で、何が障害となっており、何に力を入れるべきか等について定性的に明らかにする。

図表37 保護者インタビュー調査の実施マトリクスとID（*は一人っ子家庭）

子の性別	男児			女児		
	導入中	解除	未導入	導入中	解除	未導入
フィルタリング						
未就学児	A*	—	B	C、D*	—	—
小学校低学年	—	E	F*	G	—	H*
小学校高学年	I	J	—	K	L	—
中学生	M*	N*	—	—	O	P
高校生	—	Q*、R	—	S*	—	T

対象は、内閣府『青少年のインターネット利用環境実態調査』による区分け、および現在普及している通信会社から展開されているサービスの種類を踏まえ、(1) 子の性別、(2) 子の年代、の2軸をメインにそれぞれ均等になるように選定。また制約条件として次の4点、(a) 一人っ子を5名以上 (b) フィルタリングサービス状況について「導入中」「解除」「未導入」を可能な限り1:1:1 (c) 事前のアンケートで「ペアレンタルコントロールをしている」「トラブル経験あり」を優先的に選択する、としている。

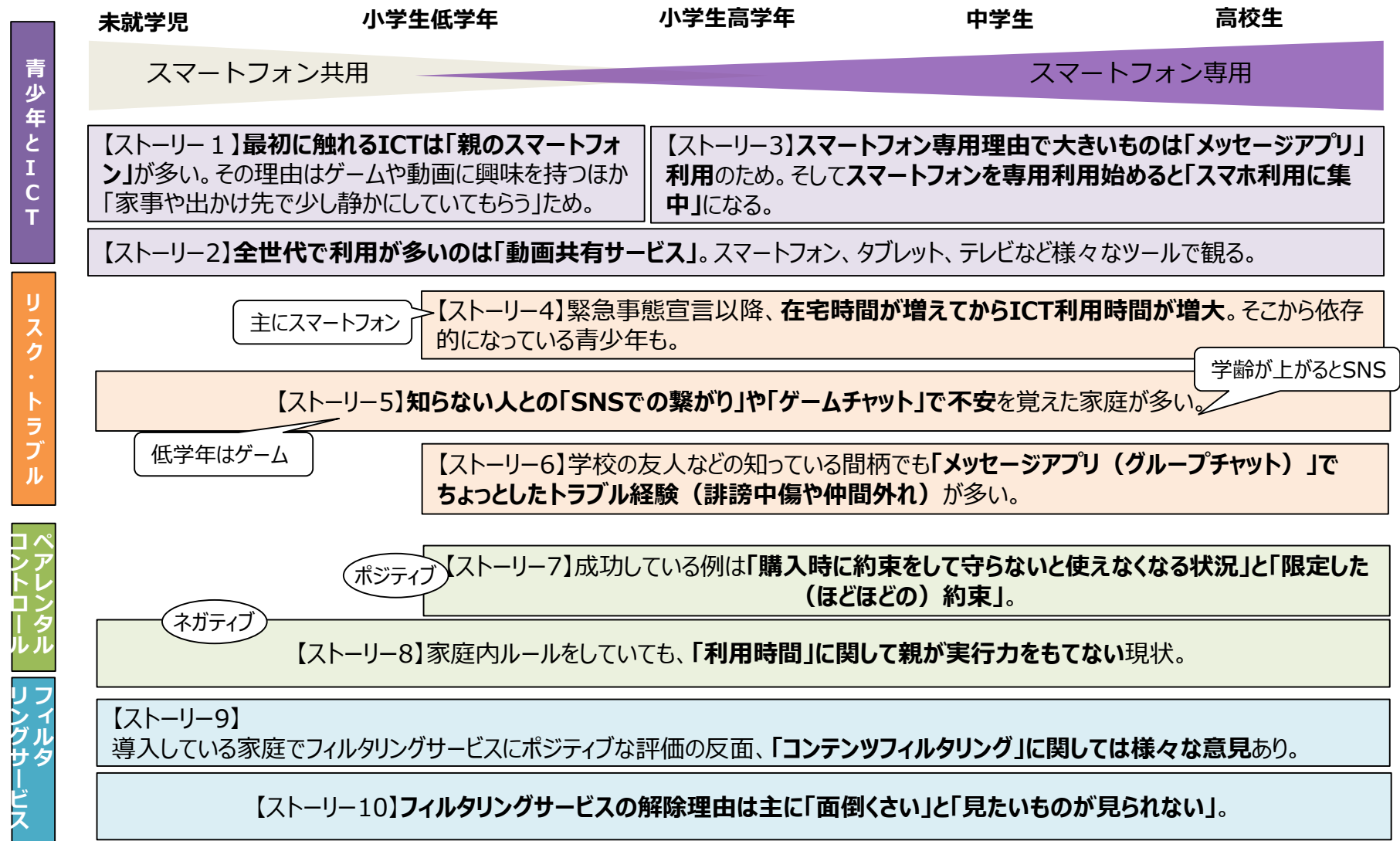
図表38 主要なヒアリング項目

青少年とICT	リスク・トラブルエピソード	ペアレンタルコントロール	フィルタリングサービス	経験からの保護者のニーズ
1 現在の利用ICT	1 経験有無	1 設定状況（ソフト）	1 設定状況・種類	1 経験からの学び・ニーズ
2 利用開始時期	2 具体エピソード	2 設定状況（ハード）	2 レベル・カスタマイズ	2 理想のICT
3 主な用途	3 トラブルの発生背景から対策内容	3 設定背景、プロセス	3 参考にした情報	3 親としての課題
4 主な利用アプリ		4 参考にした情報	4 導入・解除・未導入の理由	4 政府や企業への期待
5 利用量			5 フィルタリングサービスに対する評価	

*調査者のコミュニティや知人・友人等の繋がりを通じて、条件にマッチする調査対象者を探す方法。本調査では機縁法で1名がその対象。

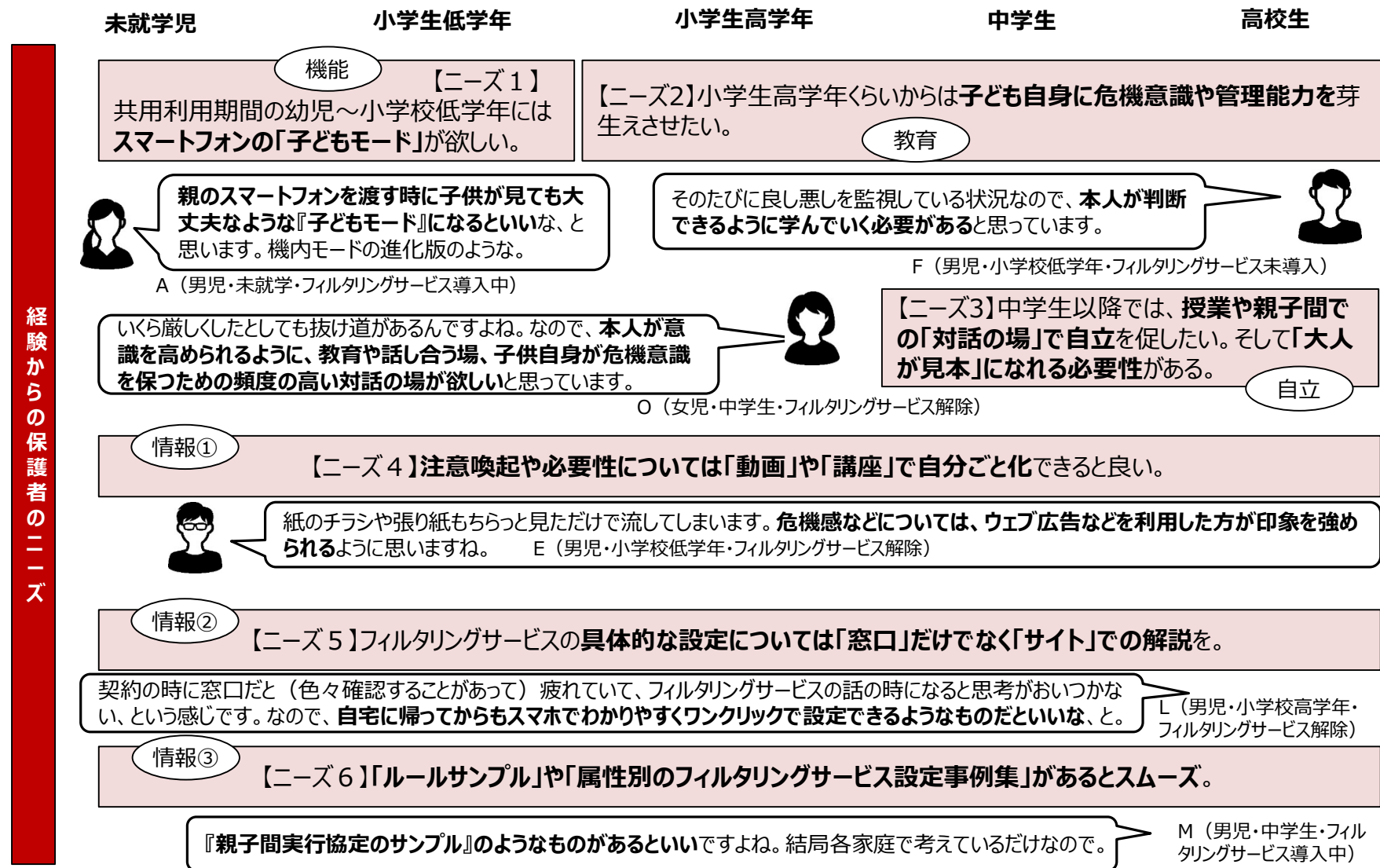
保護者インタビューから得られたストーリーとニーズ

図表39 保護者インタビューから得られた10のストーリー



保護者インタビューから得られたストーリーとニーズ

図表40 保護者インタビューから得られた6のニーズ



経験からの保護者のニーズ

企業インタビュー

◆ 企業インタビュー調査の概要

- フィルタリングサービスをはじめとするペアレンタルコントロールを普及し、かつより良い青少年のICT環境に重要となる点を明らかにするため、先端企業インタビューを実施。オンラインによるインタビュー（2022年1月18日）で対象事業者は図表41の通り。
- インタビューを通じて明らかになったサービスの背景と特徴として、次の5点が挙げられる。①「使わせない」ではなく「使いながら守る」、②「プライバシーを守りながらSNS利用を分析・見える化」する特許技術、③利用許可は「保護者」だけでなく「子供」にも同意をもらう、④利用状況にあわせて「アドバイス情報」を付与、⑤1年後の導入継続率は約90%を超える。

図表41 企業インタビュー調査対象

会社名	エースチャイルド株式会社
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもセキュリティ『Fili』の開発・運用・展開 ・子どもセキュリティ『Fili』利用技術のB2B展開(データ収集/分析、レピュテーションリスクマネジメントなど) ・マルチSNS相談窓口プラットフォーム『つながる相談』の開発・運用・展開 ・SNS学校連絡システム『つながる連絡』の開発・運用・展開 ・子どもの情報モラル、リテラシ、ネットセキュリティ系セミナー/講演・研究事業の実施
設立	2013年10月10日
Webサイト	https://www.as-child.com/

図表42 子どもセキュリティ『Fili』(『Fili』公式Webサイトより)



◆ 「フィルタリング導入率向上」および「より良い青少年のICT環境」のために必要な3点

- インタビューにより明らかになった重要な3点は以下の通り。

1) 保護者の①「危機意識の醸成・必要性の理解」と②「フィルタリング・ペアレンタルコントロールサービスの設定力」の双方が重要

2) まずは「使ってもらう」ことが大切。そのために「具体サービス名を含めたソリューション」を提示する。

3) 「コントロール」ではなく対話と心理的安全性による「見守り」を。

付録

分析結果の詳細

図表A1 家庭内のルールの個数モデルの推定結果

変数分類	変数	係数	p値	
フィルタリングサービス	フィルタリングサービス利用	0.814	0.000	**
アプリ推奨年齢	アプリの推奨年齢・対象年齢を守らせている	0.457	0.000	**
利用アプリ・サービス	動画共有サービス	0.029	0.612	
	ゲームアプリ	0.171	0.000	**
	学習・勉強・知育アプリ	0.276	0.000	**
	メッセージアプリ	0.555	0.000	**
	SNS	0.057	0.319	
	インターネットブラウザ・検索サービス	0.301	0.000	**
	フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト	-0.072	0.369	
	Eメールアプリ	0.202	0.001	**
	漫画アプリ	0.167	0.028	*
	その他	0.152	0.183	
	スマートフォン利用形態	専用	0.463	0.000
兄弟共用		0.436	0.010	*
親と共用・親の前のみ		0.578	0.000	**
親と共用		0.549	0.000	**
その他		0.362	0.252	
その他の属性	同居している子供の数（人）	0.088	0.004	**
	子供の年齢（歳）	0.354	0.000	**
	子供の年齢の2乗（歳 ² ）	-0.017	0.000	**
	子供の性別（男子）	-0.076	0.101	
	子供のスマートフォン利用時間（時間/日）	-0.117	0.000	**
	保護者と子供の接している時間（時間/日）	0.114	0.000	**
	保護者のスマートフォン利用歴（年）	0.008	0.029	*
定数項	定数項	-2.244	0.000	**
	サンプルサイズ	6500		

注1：**p<0.01、*p<0.05。

注2：p値は不均一分散に頑健な標準誤差から算出している。

注3：「フィルタリングサービス・家庭内ルールの状況」の基準は「フィルタリングサービスなし・家庭内ルールなし」。「スマートフォン利用形態」の基準は「分からない」。

分析結果の詳細

図表A2 トラブルに遭遇しない行動モデルの推定結果

変数分類	変数	限界効果	p値
フィルタリングサービス・家庭内ルールの状況	フィルタリングサービス・家庭内ルールあり	0.084	0.000 **
	家庭内ルールあり	0.077	0.000 **
	フィルタリングサービスあり	0.023	0.329
アプリの推奨年齢	アプリの推奨年齢を守らせている	0.183	0.000 **
利用サービス	動画共有サービス	0.033	0.034 *
	ゲームアプリ	-0.018	0.172
	学習・勉強・知育アプリ	-0.029	0.058
	メッセージアプリ	0.104	0.000 **
	SNS	-0.032	0.035 *
	インターネットブラウザ・検索サービス	0.044	0.003 **
	フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト	-0.090	0.000 **
	Eメールアプリ	-0.031	0.055
	漫画アプリ	-0.084	0.000 **
	その他	-0.045	0.130
	スマートフォン利用形態	専用	0.334
兄弟共用		0.246	0.001 **
親と共用・親の前のみ		0.412	0.000 **
親と共用		0.443	0.000 **
その他		0.293	0.002 **
その他の属性	同居している子供の数（人）	0.000	0.974
	子供の年齢（歳）	0.004	0.067
	子供の性別（男性）	-0.031	0.014 *
	子供のスマートフォン利用時間（時間/日）	-0.023	0.000 **
	保護者と子供の接している時間（時間/日）	0.019	0.000 **
	保護者のスマートフォン利用歴（年）	0.003	0.002 **
	サンプルサイズ	6500	

注1: **p<0.01、*p<0.05。

注2: p値は不均一分散に頑健な標準誤差から算出している。

注3: 「フィルタリングサービス・家庭内ルールの状況」の基準は「フィルタリングサービスなし・家庭内ルールなし」。「スマートフォン利用形態」の基準は「分からない」。

啓発フライヤー資料

図表A3 啓発フライヤー資料（表面）

お子さんのスマホ利用

保護者のみなさん、その心配
解決しましょう！

様々なアプリが「色々な心配」のタネに…

動画 SNS メッセージアプリ ゲーム メール ブラウザ検索 漫画アプリ 通販

01 いじめ、誹謗中傷が心配…
「大人は頼れる」を伝えよう！
画面01へ

02 自撮り被害、わいせつ犯罪に巻き込まれてない？
「信頼できる知人以外とやり取りしない」がポイント！
画面02へ

03 架空請求、個人情報の漏洩、どうすれば…
「知識とウイルス対策ソフト」で対抗！
画面03へ

04 やりすぎ、使い過ぎ、やめられない…
「このルールはなぜ作る？」の意識共有が成功のカギ！
画面04へ

05 課金、フリマ、通販…支払いは大丈夫？
「設定と正しい年齢登録」で安心を！
画面05へ

このリーフレットは、お子さんのスマホ利用時に各自保護者の方へ向けのもので

図表A4 啓発フライヤー資料（裏面）

ご家庭でやれることはこれ！

フィルタリングサービスで解決！

01 いじめ、誹謗中傷が心配…
日頃から「私たちは味方、大人は相談先を知っている」と伝え続け、一人で抱え込ませない
人を傷つける投稿、嫌な気持ちにさせる投稿はしないなど、加害者にならないための約束を

いじめが起きやすいアプリのインストールは、制限機能を使って保護者が阻止

02 自撮り被害、わいせつ犯罪に巻き込まれてない？
「誰にでも起きること、私は怒らない」というメッセージをママに発信、相談できる関係を
性的な自撮りをしない、友達登録やメッセージ送信は信頼できる知人のみ、などのルール作りを

成長に応じて、ダウンロードできるアプリを許可制に
お子さんが今どんなアプリを使っているか把握

03 架空請求、個人情報の漏洩、どうすれば…
「架空請求」で、本当に支払いが必要となるケースはほほないので焦らない
自分や友人が特定される情報は投稿しないルールを
ウイルスを使った詐欺に備え、セキュリティソフトを導入

違法・有害サイトへの接続を制限
お子さんの年齢に応じてフィルターの強度を調節

04 やりすぎ、使い過ぎ、やめられない…
利用時間、利用をやめる時刻のルール決めを
勉強時間や睡眠など「すでに起きている弊害」を解決するためには？どうすれば良い？という視点で話し合いを

アプリ毎に利用時間の上限を設定
必要な時は、保護者のスマホからお子さんのアプリを停止

05 課金、フリマ、通販…支払いは大丈夫？
未成年の課金制限があるサービスには、正しい年齢を登録して金額上限を有効化
お金についての「約束事」をしっかりと決める

お子さんの課金状況を確認
「課金はその都度、許可制」の設定を活用

【委託先】 学校法人国際大学



GLOCOM

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

調査研究報告書執筆担当

- 山口 真一 国際大学GLOCOM 准教授・主任研究員
- 青木 志保子 国際大学GLOCOM 主任研究員
- 井上 絵理 国際大学GLOCOM リサーチアシスタント

調査研究プロジェクトメンバー

- 山口 真一 国際大学GLOCOM 准教授・主任研究員
- 青木 志保子 国際大学GLOCOM 主任研究員
- 渡辺 智暁 国際大学GLOCOM 教授・研究部長・主幹研究員
- 井上 絵理 国際大学GLOCOM リサーチアシスタント
- 大島 英隆 国際大学GLOCOM リサーチアシスタント
- 谷原 吏 国際大学GLOCOM リサーチアシスタント